

令和2年
岩手県教育委員会定例会
12月

岩 手 県 教 育 委 員 会

令和2年12月 岩手県教育委員会定例会議事日程

令和2年12月21日（月）午後1時30分

第1 会期決定の件

- 第2 事務報告1 令和2年12月県議会定例会の概要について (教育企画室)
- 第3 事務報告2 令和2年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査質問紙調査結果について (学校教育課)
- 第4 事務報告3 令和3年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜に係る出願状況について (学校教育課)
- 第5 議案第27号 岩手県立博物館協議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて (生涯学習文化財課)
- 第6 議案第28号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて (教職員課)
- 第7 議案第29号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて (教職員課)
- 第8 議案第30号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて (教職員課)
- 第9 議案第31号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて (教職員課)

閉会

令和 2 年 12 月 県議会定例会の概要について

12 月 県議会定例会の概要は、次のとおりであった。

1 日 程

11 月 25 日（水）	本会議（招集）
12 月 1 日（火）～ 3 日（木）	本会議（一般質問、質疑、委員会付託）
12 月 4 日（金）	常任委員会
12 月 8 日（火）	本会議（採決：補正予算、指定管理者の指定等）

2 一般質問【12 月 1 日（火）～ 3 日（木）】

(1) 党派別一般質問議員数（9 人）

希望いわて	3 人
自由民主党	3 人
いわて新政会	1 人
いわて県民クラブ	1 人
日本共産党	1 人

(2) 一般質問（教育委員会関係：6 人）

次の議員から質問があり、教育長が答弁した。

ア 飯澤 匡 議員 1 件

(ア)（農林水産部）本県の産業振興と人材育成について

【再質問】畜産業の振興に向けた人材と資産の有効活用について

イ 吉田 敬子 議員 4 件

(イ) 教育施策について

- ① 幼児教育と県の教育施策について
 - a 就学前教育・保育施設における教育について
 - b 幼児教育からの一貫した人づくりについて
- ② 高校再編計画について
 - a 近隣中学校への影響について
 - b 地域住民の合意形成について

ウ 郷右近 浩 議員 2 件

(ウ) 教育環境整備について

- ① G I G A スクール構想について
 - a I C T 環境の整備について
 - b 通信費等への支援について

エ 佐々木 宣和 議員 3 件

(エ) 新型コロナウイルス感染症への対応について

- ① B C P（事業継続計画）について
- ② 教育の振興について
 - a G I G A スクール構想について

b 少人数学級への転換について

オ 米内 紘正 議員 4件

(ア) 教育について

- ① 学校の休業について
- ② 幸福関連指標の決定経緯について
- ③ 子供の学力に対する考え方及び方向性について
- ④ 学力調査について

カ 佐藤 ケイ子 議員 3件

(ア) 働き方改革について

- ① 教職員の働き方改革について
 - a 時間外勤務の削減について
 - b 業務見直しの状況と今後について
 - c 各種調査・テストの見直しについて

3 文教委員会【12月4日（金）】

(1) 冒頭陳謝

教育委員会関係審査の冒頭、教育長から宮古市立花輪中学校教職員の交通事故による逮捕事案の報告と陳謝を行った。

(2) 議案の審議

ア 議案第1号「令和2年度岩手県一般会計補正予算（第6号）」、議案第21号「岩手県立県南青少年の家の指定管理者を指定することに関し議決を求めることについて」、議案第22号「岩手県立陸中海岸青少年の家の指定管理者を指定することに関し議決を求めることについて」及び議案第23号「岩手県立県北青少年の家の指定管理者を指定することに関し議決を求めることについて」、教育局長及び生涯学習文化財課総括課長から提案理由の説明を行った。

(ア) 質問等

伊藤勢至委員、城内よしひこ委員、高橋穩至委員、千葉秀幸委員及び斉藤信委員から修学旅行の実施状況、釜石祥雲支援学校整備及び指定管理者の運営体制等について質問があり、学校教育課総括課長、義務教育課長、学校施設課長及び生涯学習文化財課総括課長が答弁した。

(イ) 採決

原案どおり可決された。

イ 議案第13号「損害賠償請求事件に係る和解及びこれに伴う損害賠償の額を定めることについて」、学校施設課長から提案理由の説明を行った。

(ア) 質問等

城内よしひこ委員から損害の割合について質問があり、学校施設課長が答弁した。

(イ) 採決

原案どおり可決された。

(3) その他（この際発言）

ア 「再発防止「岩手モデル」策定委員会の設置について」、県立学校人事課長から報告を行った。

高橋穩至委員、千葉盛委員、斉藤信委員及び小西和子委員から委員会の概要等について質問があり、教育長、参事兼教職員課総括課長、県立学校人事課長及び保健体育課総括課長が

答弁した。

イ 「「岩手県文化財保存活用大綱」の策定について」、文化財課長から報告を行った。

(質問なし)

ウ 上記ア、イのほか、城内よしひこ委員、千葉盛委員、千葉絢子委員、高橋穂至委員、斉藤信委員、小西和子委員及び上原康樹委員から新型コロナウイルス感染症への対応や進学・就職への影響、令和3年度の教員配置、高校再編後期計画及び問題行動等調査等について質問があり、教育長、教育企画推進監及び関係課長が答弁した。

※ 議員毎の件数は項目数であり、同一項目の関連質問は含んでいないため、件数と答弁実績数は一致していないこと。

令和2年度岩手県一般会計補正予算（第6号）の概要（教育委員会）

1 予算額

（単位：百万円）

区 分	現 計 予 算 額	補 正 予 算 額	補正後現計予算額
予 算 額	144,129	22	144,151

2 主な事項及び内容

(1) 歳出

科 目	補 正 予 算 額	事 項 及 び 内 容
教育指導費 (10款1項4目)	千円 16,002	○（新規）県立学校修学旅行キャンセル料等支援事業費 16,002千円 保護者の経済的負担軽減を図るため、新型コロナウイルス感染症の影響による修学旅行の中止や延期等で生じたキャンセル料の支援等を行おうとするものである。

(2) 債務負担行為

科 目	事 項 及 び 内 容				
特別支援学校費 (10款5項1目)	○特別支援学校施設整備事業 令和4年9月に開校を予定している釜石祥雲支援学校の新築工事について、期間及び限度額を定めて債務負担行為を設定しようとするものである。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: center;">期 間</td> <td>令和2年度から令和4年度まで</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">限度額</td> <td>2,515,000千円</td> </tr> </table>	期 間	令和2年度から令和4年度まで	限度額	2,515,000千円
期 間	令和2年度から令和4年度まで				
限度額	2,515,000千円				

議案第 21 号 岩手県立県南青少年の家の指定管理者を指定することに関し議決を求めることについて

1 提案の趣旨

令和3年4月1日からの岩手県立県南青少年の家の指定管理者を指定するため、地方自治法第244条の2第6項の規定により、議会の議決を求めるものである。

2 指定する指定管理者の概要

- (1) 指定管理者の名称：公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団
- (2) 団 体 住 所：盛岡市みたけ一丁目10番1号
- (3) 指 定 期 間：令和3年4月1日から令和8年3月31日まで

3 指定管理者候補者選定の経緯

(1) 選定委員会の概要

外部委員5名で構成する「教育委員会所管社会教育施設指定管理者選定委員会」を設置し、指定管理者の選定等について協議し決定した。

ア 選定委員会委員 (順不同、敬称略)

氏 名	所属及び役職	備 考
大 橋 清 司	岩手県社会教育連絡協議会会長	委員長
鎌 田 安 久	岩手大学教育学部 教授	副委員長
田 口 昭 隆	一般社団法人岩手県PTA連合会会長	
新 山 正 智	一般社団法人岩手県設備設計事務所協会会長	
林 謙 志	公認会計士・税理士	

イ 協議内容の概要

第1回選定委員会：令和2年7月21日 委員5名出席

募集要項及び選定基準の策定

第2回選定委員会：令和2年9月29日 委員5名出席

書類審査及び面接審査

(2) 募集期間等

募集要項配付：令和2年8月5日～9月3日

申請受付期間：令和2年8月5日～9月3日

(3) 申請団体数

1 団体

(4) 指定の理由

現行の管理受託者として適切な施設管理を行ってきたほか、自主事業による利用促進にも工夫して取り組んできたことなどから、今後も適切な施設管理及び利用促進が期待できるため。

議案第 22 号 岩手県立陸中海岸青少年の家の指定管理者を指定すること に関し議決を求めることについて

1 提案の趣旨

令和 3 年 4 月 1 日からの岩手県立陸中海岸青少年の家の指定管理者を指定するため、地方自治法第 244 条の 2 第 6 項の規定により、議会の議決を求めるものである。

2 指定する指定管理者の概要

- (1) 指定管理者の名称：公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団
- (2) 団 体 住 所：盛岡市みたけ一丁目 10 番 1 号
- (3) 指 定 期 間：令和 3 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

3 指定管理者候補者選定の経緯

(1) 選定委員会の概要

外部委員 5 名で構成する「教育委員会所管社会教育施設指定管理者選定委員会」を設置し、指定管理者の選定等について協議し決定した。

ア 選定委員会委員 (順不同、敬称略)

氏 名	所属及び役職	備 考
大 橋 清 司	岩手県社会教育連絡協議会会長	委員長
鎌 田 安 久	岩手大学教育学部 教授	副委員長
田 口 昭 隆	一般社団法人岩手県 P T A 連合会会長	
新 山 正 智	一般社団法人岩手県設備設計事務所協会会長	
林 謙 志	公認会計士・税理士	

イ 協議内容の概要

第 1 回選定委員会：令和 2 年 7 月 21 日 委員 5 名出席

募集要項及び選定基準の策定

第 2 回選定委員会：令和 2 年 9 月 29 日 委員 5 名出席

書類審査及び面接審査

(2) 募集期間等

募集要項配付：令和2年8月5日～9月3日

申請受付期間：令和2年8月5日～9月3日

(3) 申請団体数

1 団体

(4) 指定の理由

現行の管理受託者として適切な施設管理を行ってきたほか、自主事業による利用促進にも工夫して取り組んできたことなどから、今後も適切な施設管理及び利用促進が期待できるため。

議案第 23 号 岩手県立県北青少年の家の指定管理者を指定することに関し議決を求めることについて

1 提案の趣旨

令和 3 年 4 月 1 日からの岩手県立県北青少年の家の指定管理者を指定するため、地方自治法第 244 条の 2 第 6 項の規定により、議会の議決を求めるものである。

2 指定する指定管理者の概要

- (1) 指定管理者の名称：公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団
- (2) 団 体 住 所：盛岡市みたけ一丁目 10 番 1 号
- (3) 指 定 期 間：令和 3 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

3 指定管理者候補者選定の経緯

(1) 選定委員会の概要

外部委員 5 名で構成する「教育委員会所管社会教育施設指定管理者選定委員会」を設置し、指定管理者の選定等について協議し決定した。

ア 選定委員会委員 (順不同、敬称略)

氏 名	所属及び役職	備 考
大 橋 清 司	岩手県社会教育連絡協議会会長	委員長
鎌 田 安 久	岩手大学教育学部 教授	副委員長
田 口 昭 隆	一般社団法人岩手県 P T A 連合会会長	
新 山 正 智	一般社団法人岩手県設備設計事務所協会会長	
林 謙 志	公認会計士・税理士	

イ 協議内容の概要

第 1 回選定委員会：令和 2 年 7 月 21 日 委員 5 名出席

募集要項及び選定基準の策定

第 2 回選定委員会：令和 2 年 9 月 29 日 委員 5 名出席

書類審査及び面接審査

(2) 募集期間等

募集要項配付：令和2年8月5日～9月3日

申請受付期間：令和2年8月5日～9月3日

(3) 申請団体数

1 団体

(4) 指定の理由

現行の管理受託者として適切な施設管理を行ってきたほか、自主事業による利用促進にも工夫して取り組んできたことなどから、今後も適切な施設管理及び利用促進が期待できるため。

議案第 13 号 損害賠償請求事件に係る和解及びこれに伴う損害賠償の額を定めることに関し議決を求めることについて

1 提案の趣旨

損害賠償請求事件に係る和解をし、これに伴う損害賠償の額を定めることについて、地方自治法第 96 条第 1 項第 12 号及び第 13 号の規定により、議会の議決を求めるものである。

2 損害賠償及び和解の相手方

宮古市西ヶ丘四丁目 56 番地 6 田屋 英明

3 損害賠償の額

32,010 円

4 和解の内容及び損害賠償する理由

(1) 和解の内容

損害賠償の額を上記のとおりとし、当事者は、ともに将来いかなる事由が発生しても一切の異議を申し立てない。

(2) 損害賠償する理由

今回の事故原因は、岩手県立宮古恵風支援学校職員が学校敷地内の草刈り作業を行った際、跳ね上げた小石が、敷地内の駐車場に駐車中の田屋英明所有の自動車に衝突したことにより、右フロントドアガラスが破損し、損害を与えたものであることから、国家賠償法第 1 条第 1 項の規定に基づき賠償するものである。

再発防止「岩手モデル」策定委員会の設置について

1 これまでの経緯等

- 令和2年7月22日（水） 調査委員会から「調査報告書」を受領
県教育委員会から御遺族への報告
- 7月30日（木） 教育委員会議臨時会・総合教育会議臨時会開催
- 8月3日（月） 臨時県立学校長会議開催
- 8月4日（火） 県議会常任委員会で報告
- 9月3日（木） スポーツ庁訪問

2 委員会の概要

(1) 名称

再発防止「岩手モデル」策定委員会

(2) 協議事項

- ① 体罰・ハラスメントの防止に向け、学校現場の発想やアイデアを集約し、ボトムアップによりマニュアル・ガイドライン等を改良すること。
- ② 再発防止に向け、部活動指導のあり方や部活動指導者に対する研修内容をスポーツ・インテグリティの視点を踏まえて検討し、実践的研修を実施すること。
- ③ 部活動に依存した進路指導・キャリア教育の問題点を踏まえ、生徒に選択する力をつける進路指導やキャリア教育の方法を示すこと。
- ④ 部活動参加体制や推薦入試における基準を見直し、生徒がより主体的に部活動に取り組める環境を整備すること。
- ⑤ 自殺予防に向けた教員研修システムの構築、相談体制の整備、生徒への啓発プログラムの整備を行い、「悩みや苦しみを抱えた生徒が援助希求できる体制」を構築すること。
- ⑥ 今回の事案に関わって、問題ある指導について正確な事実認識、適切な対応・評価、的確な情報共有ができなかった理由を解明し、正確な事実認識、適切な対応・評価、的確な情報共有を確実に遂行できる方法・体制を構築すること。
- ⑦ 再発防止に向け、管理職研修の内容を検討し、実施すること。
- ⑧ ①～⑦の検討内容の全体調整を行うとともに、再発防止「岩手モデル」について発信すること。

(3) 委員

県教育委員会事務局内の局長・次長・関係課長、学事振興課・スポーツ振興課・障がい保健福祉課の各総括課長及び自殺対策、保健体育教育・部活動指導、スポーツ危機管理、キャリア教育、法律に関し学識経験を有する方により構成する。

3 添付資料

再発防止「岩手モデル」策定委員会設置要綱

再発防止「岩手モデル」策定委員会 設置要綱

(設置)

第1条 岩手県教育委員会は、岩手県立高等学校生徒自死事案を受けて設置した「県立学校児童生徒の重大事案に関する調査委員会」の「調査報告書」の提言の趣旨を尊重し、再発防止に向けて「悩みや苦しみを抱えた生徒が援助希求できる体制の構築」「生徒の主体性を育む指導體制の構築」「調査報告書」の提言に基づく「岩手モデル」の発信に係る具体的取組を協議するため、再発防止「岩手モデル」策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(協議事項)

第2条 委員会において協議する事項は、次の事項とする。

- (1) 体罰・ハラスメントの防止に向け、学校現場の発想やアイデアを集約し、ボトムアップによりマニュアル・ガイドライン等を改良すること。
- (2) 再発防止に向け、部活動指導のあり方や部活動指導者に対する研修内容をスポーツ・インテグリティの視点を踏まえて検討し、実践的研修を実施すること。
- (3) 部活動に依存した進路指導・キャリア教育の問題点を踏まえ、生徒に選択する力をつける進路指導やキャリア教育の方法を示すこと。
- (4) 部活動参加体制や推薦入試における基準を見直し、生徒がより主体的に部活動に取り組める環境を整備すること。
- (5) 自殺予防に向けた教員研修システムの構築、相談体制の整備、生徒への啓発プログラムの整備を行い、「悩みや苦しみを抱えた生徒が援助希求できる体制」を構築すること。
- (6) 今回の事案に関わって、問題ある指導について正確な事実認識、適切な対応・評価、的確な情報共有ができなかった理由を解明し、正確な事実認識、適切な対応・評価、的確な情報共有を確実に遂行できる方法・体制を構築すること。
- (7) 再発防止に向け、管理職研修の内容を検討し、実施すること。
- (8) (1)～(7)の検討内容の全体調整を行うとともに、再発防止「岩手モデル」について発信すること。

(組織)

第3条 委員会は、別表に掲げる構成員をもって構成する。

- 2 委員長は、教育局長を充てる。
- 3 副委員長は、教育次長及び教職員課総括課長を充てる。
- 4 委員長は、委員会を総括する。
- 5 委員長に事故があるとき又は欠けたときは、副委員長の中から委員長があらかじめ指名した者が委員長の職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて委員長が招集する。

2 構成員が会議に出席できない場合、その代理者が会議に出席することができる。

3 会議は、原則として公開とする。ただし、次のいずれかに該当する場合は、会議を公開しないことができる。

(1) 情報公開条例（平成10年岩手県条例第49号）第7条第1項各号に掲げる情報に該当すると認められる事項について協議を行う場合

(2) 会議を公開することにより、公正かつ円滑な議事運営に著しい支障が生ずることが明らかに予想される場合

4 委員会は、会議を開催したときは議事録を作成しなければならない。

5 委員会は、必要があると認めたときは、遺族等構成員以外の者に会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

(部会)

第5条 委員会の協議事項について検討するため、次の部会を置く。

(1) 体罰・ハラスメント防止マニュアル・ガイドライン検討部会

(2) 部活動指導者研修検討部会

(3) 進路指導・キャリア教育検討部会

(4) 部活動参加体制等検討部会

(5) 自殺予防教育検討部会

(6) 人事管理等検討部会

(7) 管理職研修検討部会

(8) 再発防止「岩手モデル」発信作業部会

2 部会の構成員は、委員長が別に定める。

(事務局等)

第6条 委員会の事務局は、岩手県教育委員会事務局教職員課、学校調整課、学校教育課及び保健体育課とし、委員会の協議事項に係る調査、資料収集その他の事務を処理する。

(補則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和2年11月30日から施行する。

別表（第3条関係）

団体又は機関名及び職	氏 名
岩手医科大学神経精神科学講座教授	大塚 耕太郎
リベルタス法律事務所 弁護士	小幡 佳緒里
法政大学キャリアデザイン学部教授	児美川 孝一郎
朝日大学教職課程センター教授	高橋 幸平
日本体育大学スポーツ文化学部教授	南部 さおり
藤田法律事務所 弁護士	藤田 治彦
岩手県教育委員会事務局教育局長	佐藤 一男
岩手県教育委員会事務局教育次長	梅津 久仁宏
岩手県教育委員会事務局教職員課総括課長	山村 勉
岩手県教育委員会事務局教育企画室教育企画推進監	渡辺 謙一
岩手県教育委員会事務局学校調整課総括課長	木村 克則
岩手県教育委員会事務局学校教育課総括課長	中川 覚敬
岩手県教育委員会事務局保健体育課総括課長	清川 義彦
岩手県教育委員会事務局教職員課県立学校人事課長	高橋 一佳
岩手県教育委員会事務局教職員課小中学校人事課長	金野 治
岩手県教育委員会事務局学校教育課高校教育課長	須川 和紀
岩手県教育委員会事務局学校教育課義務教育課長	小野寺 哲男
岩手県教育委員会事務局学校調整課生徒指導課長	泉澤 毅
岩手県教育委員会事務局学校調整課産業・復興教育課長	軍司 悟
ふるさと振興部学事振興課総括課長	中里 武司
文化スポーツ部スポーツ振興課総括課長	山本 卓美
保健福祉部障がい保健福祉課総括課長	菊池 優幸

「岩手県文化財保存活用大綱」の策定について（報告）

【要 旨】

- 文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 183 条の 2 第 1 項の規定に基づき現在策定を進めている「岩手県文化財保存活用大綱」について、現段階における概要について報告します。

1 策定の趣旨と経緯

改正文化財保護法（平成 30 年 6 月 8 日公布、平成 31 年 4 月 1 日施行）において、地域における文化財の確実な保存と積極的な活用が示され、都道府県は「文化財保存活用大綱」、市町村は「文化財保存活用地域計画」の策定ができることとされました。

これを受け、教育委員会では「岩手県文化財保存活用大綱」を策定することとし、昨年から検討会議の設置、市町村及び専門家等への意見照会などを行いながら作業を進めているところです。

本県において、当該大綱の策定については、「いわて県民計画（2019～2028）第 1 期アクションプランー政策推進プランー」にも具体的推進方策として位置づけているものです。

県が当該大綱を定めることにより、文化財の保存及び活用に関して、**県と関係市町村との一層の連携**や、総合的な取組の推進が図られるとともに、**市町村の「文化財保存活用地域計画」策定に対する情報提供や助言等の支援効果**が期待されます。

2 策定する計画の案の概要

- (1) 今回策定する大綱は、文化財保護法改正の趣旨を踏まえ、岩手の文化財保護に関する諸課題を解決する方策を検討し、県内文化財の保存・活用に係る基本的な方針を示すことにより、県と市町村等が各種の取組を進める上での共通の基盤とすることを目的としています。
- (2) 本大綱では、岩手の文化財保護の目指すべき将来像の実現に向けて「保存・継承」、「調査・研究」、「活用・地域づくり」という 3 つの視点を柱として、それぞれ保存・活用のための方策と具体的措置について記述しています。
- (3) また、本県文化財の成り立ちと特徴について、地域的観点を踏まえて整理するとともに、東日本大震災津波の経験に基づく文化財の危機管理等についても記述しています。本県の文化財の特質や経験を活かした「岩手ならではの」取組と言えるものです。

3 策定スケジュール

- (1) パブリックコメントの実施（12 月中旬～1 月中旬ごろ）
- (2) 文化財保護審議会（2/5）報告
- (3) 教育委員会定例会（3/16）議決

岩手県文化財保存活用大綱（素案）（概要版）

文教委員会資料 2
令和 2 年 12 月 4 日
教育委員会事務局生涯学習文化財課

【第 1 章】大綱の目的と岩手県の文化財の概要

[大綱策定の目的]

【背景】

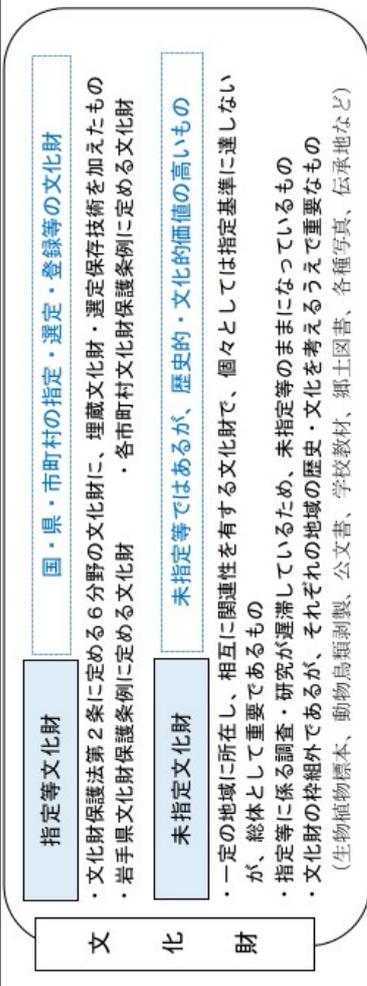
- ・過疎化・少子高齢化等の社会環境の変化の中、文化財の保存・継承が困難になるおそれがあること。
- ・文化財を地域づくりに活かし、後継者を確保し、地域社会全体で文化財の保存・活用に取り組む体制の整備が必要になったこと。

【目的】

- ・本県文化財の成立とその特性を明らかにし、保存・活用の基本的な方向性を明確化すること。
- ・文化財に関する資料データを網羅的に提示し、県・市町村等が各種の取組を進めていく上での共通の基盤とすること。

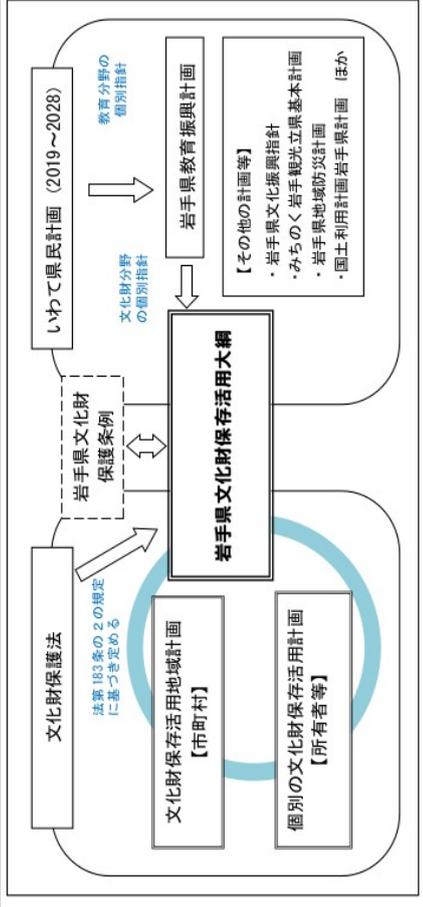
[大綱が対象とする文化財]

文化財の指定等がなされた「指定等文化財」に、「未指定文化財」を加えた総体としての「文化財」



[大綱の位置付け]

文化財保護法第 183 条の 2 に規定する本県の「文化財の保存及び活用に関する総合的な施策の大綱」



【第 2 章】岩手県の文化財の保存・活用の基本方針

[目指すべき姿]

多様な文化財を守り育て、地域の誇りとして、次世代へ継承する「いわて」

[基本方針と方策]

基本方針 3 本柱	1. 保存・継承	2. 調査・研究	3. 活用・地域づくり
基本方針 1	文化財の確実な保存と次世代への継承		(保存・継承)
基本方針 2	文化財の調査・研究と価値の共有		(調査・研究)
基本方針 3	文化財の持続的な保護と新たな地域づくり		(活用・地域づくり)

基本方針 1 に基づく方策

【文化財の現状把握の徹底】

文化財の現状確認を着実にを行い、県・市町村・所有者等の関係者での情報共有を徹底する。

【文化財の指定推進や保存修理事業の実施】

文化財の更なる保護のため、指定推進を図るとともに、必要に応じて、文化財の保存修理事業等を実施する。

【文化財保護のための諸計画等の整備】

県における文化財に関する条例等の関係法規、その他通知等について、国の法体系や社会情勢等を踏まえた見直しを検討する。

また、「文化財保存活用地域計画」など、文化財保護のための諸計画の策定を推進する。

【文化財保管施設等の確保】

文化財の適切な保存管理のため、既存施設の見直しや拡充を検討し、収容スペースや適切な保管環境などの確保に努める。

【文化財の記録保存の推進】

無形文化財や天然記念物など、社会情勢や周辺の環境により、その形状が変容する可能性が高いものについては、記録保存調査等の実施を検討する。

基本方針 2 に基づく方策

【未指定を含めた悉皆調査の実施】

未指定のいわゆる「埋もれた文化財」の発掘や、広域テーマに関する文化財とその関連要素などの全体把握を進める。

【学術的な調査・研究の推進】

未だ詳細な調査がなされていない文化財について、その価値を明らかにするための、学術的な調査や専門家等による研究を推進する。

【これまでの調査・研究成果の整理・再評価】

これまでの調査・研究成果の整理や、それらを踏まえた他分野との共同など、多様な視点での調査・研究を推進する。

【調査・研究成果の共有】

調査報告書や写真等のデジタル化を進め、それらを広く一般に公開するためのデータベースを構築する。

令和 2 年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査 質問紙調査結果の概要について

1 調査の目的

各小・中・義務教育学校において、児童生徒一人一人の学習の定着状況を把握し、その結果を基に指導の充実を図る。

また、全県的な規模で学習の定着状況を把握するとともに、明らかになった学習指導上の問題点を教育施策に反映させることにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

(※ 今年度は新型コロナウイルス感染症対応に配慮し、教科調査を中止して質問紙調査のみを実施)

2 調査の内容

調査種類	設問数	実施日	調査対象	対象数
意識調査	児童	令和 2 年 10 月 7 日(水)	公立小学校第 5 学年 ※義務教育学校第 5 学年含む	9,429
	生徒		公立中学校第 2 学年 ※義務教育学校第 8 学年含む	9,636
	学校	令和 2 年 9 月 30 日(水) ～10 月 9 日(金)	公立小学校及び義務教育学校	302
			公立中学校及び義務教育学校	151

3 質問紙調査結果の分析

(1) 「注視する 5 項目 (コア・ファイブ)」について

これまで県として推進してきた「諸調査結果を活用した『学校の組織的な対応の強化』」について、令和元年度から「いわて県民計画 (2019～2028)」第 1 期アクションプランに掲げる指標との関連を踏まえ、学校質問紙の中の 5 つの設問に注目し、分析することとした。

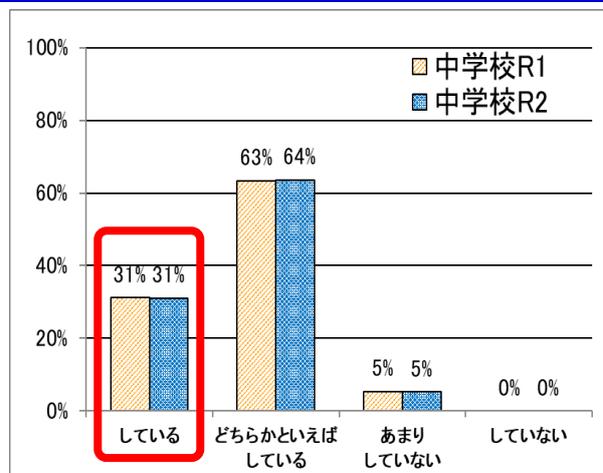
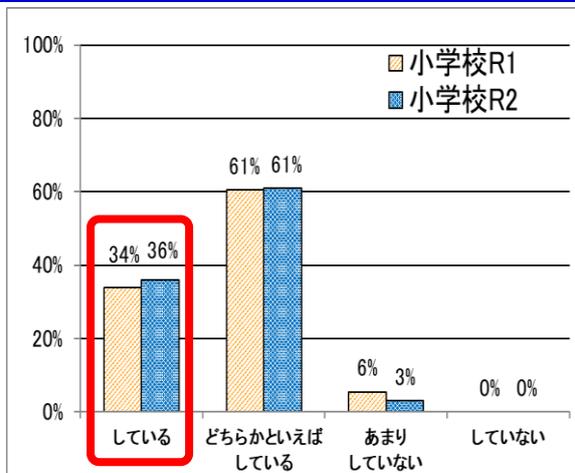
※県が取り組む具体的な推進方策指標とコア・ファイブの設問との関連

Ⅲ 教育	
11 【知育】児童生徒の確かな学力を育みます	設問との関連
① これからの社会で活躍するために必要な資質・能力	
・ 児童生徒が調べたことなどを適切に表現する指導をしている 学校の割合	コア 5 ①
・ 授業内で学習を振り返っている児童生徒の割合	コア 5 ②
② 諸調査や ICT の活用等による児童生徒の実態に応じた授業改善の推進と 家庭学習の充実	
・ つまずきに対応した授業改善が行われていると感じている 児童生徒の割合	コア 5 ③④
・ 弱点を克服するための学習や発展的な学習に自ら取り組んでいる 児童生徒の割合	コア 5 ⑤

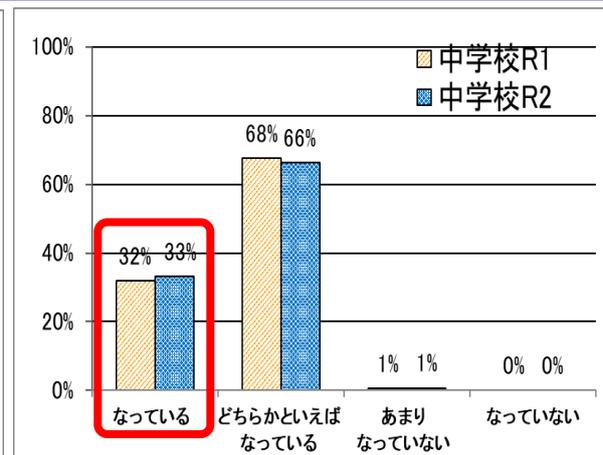
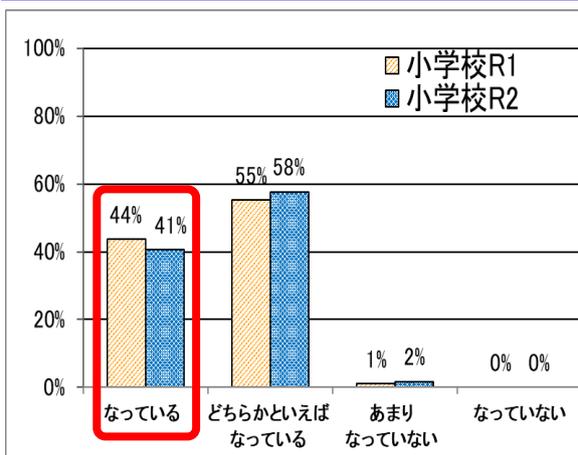
学校全体で組織的に学力向上に取り組むに当たり、本調査の各学校の分析結果については、「積極肯定」に注目して、今後の指導に生かしていく必要がある。

すべての項目において、「している」「なっている」などの各質問の1番の回答(「積極肯定」)の割合を注視しています。

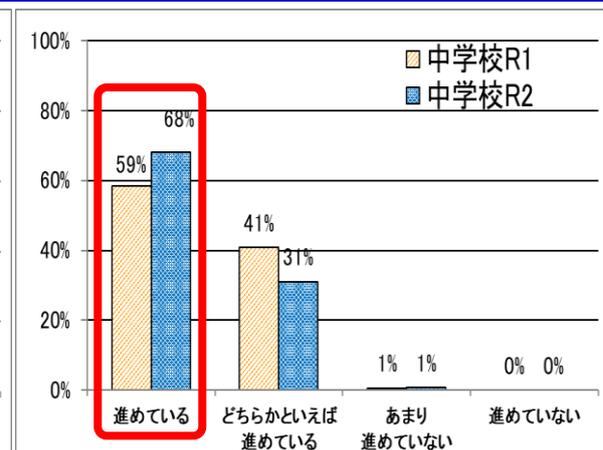
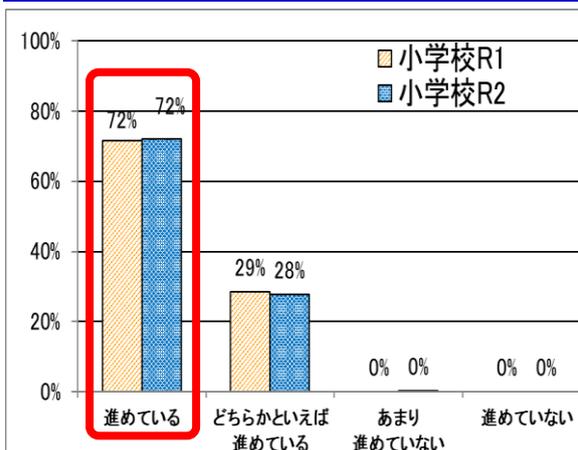
① 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。



② 児童生徒自身が、学習の成果(または課題)を実感できる振り返りとなっていますか。

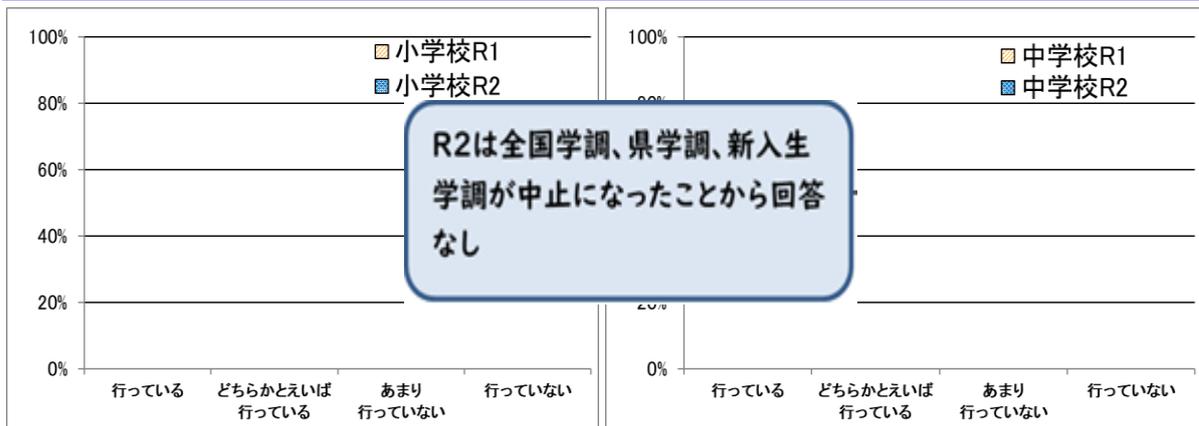


③ 児童生徒の間違いを認める雰囲気を作り、その中で授業を進めていますか。



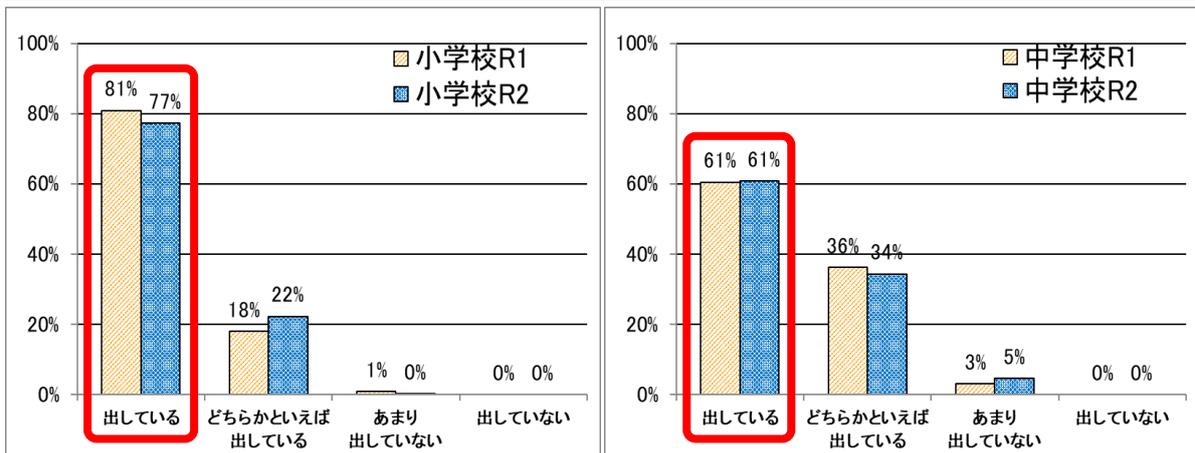
④

諸調査の自校の分析結果から見た児童生徒のつまずきに対応した授業改善を行っていますか。



⑤

授業内容の理解を促進する家庭学習の課題(宿題)を計画的に出していますか。



【コア5①】「調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書く」、【コア5②】「児童生徒が実感できる振り返り」については、他の項目と比較すると、小・中学校ともに積極肯定の割合が低い。

【コア5①】「文章を書く」活動は、日常の学習活動の中に位置づいてきている。今後は、児童生徒一人ひとりの文書表現を計画的・意図的に把握しながら、その質を高めていくよう、個に応じた指導を繰り返していくことが大切である。

【コア5②】振り返りを行う際は、単に学習感想の記述や、知識の確認で留まることなく、学びを実感できる時間を確保しながら、児童生徒一人ひとりの記述や発言等を丁寧に評価していくことが大切である。課題解決のプロセスを振り返ることで、課題を解決することの達成感や学習内容の有用感を実感させていくことが次への学習意欲にもつながるものである。

(2) 学校の授業改善に向けて組織的・重点的に取り組むべき内容について

ア 調査分析・活用のあり方

【学校質問紙27】 全国学調，県学調について，具体的にどのような目標を設定して計画的に取り組みましたか。【複数回答】

学年	年	教科調査の正答率と 県平均の差	教科調査の正答率	教科調査の無解答率と 県平均の差	教科調査の無解答率	児童生徒質問紙の 結果・分布	同一集団の 経年比較
小学校	R1	79	65	24	40	56	28
	R2	86	72	28	35	61	36
中学校	R1	85	56	23	29	61	37
	R2	87	58	24	31	73	42

【学校質問紙30】 昨年度の教科調査の結果分析の際，何を用いて行っていますか。【複数回答】

学年	年	教科全体の正答率	問題ごとの正答率	分布状況	誤答の反応率	児童生徒の記述 内容(実解答)
小学校	R1	78	97	51	37	44
	R2	80	95	44	41	40
中学校	R1	84	90	57	27	30
	R2	83	87	50	31	31

【学校質問紙29】 全国学調の問題（一部を含む）を全教員で解いて，出題の趣旨を分析し共通理解する時間を設定しましたか。

学年	年	設定し、活用した	設定し、年度中に 実施予定である	設定していない
小学校	R1	63	33	4
	R2	51	42	7
中学校	R1	34	51	15
	R2	23	41	36

【質問紙 27】 児童生徒一人ひとりのつまずきの克服の状況を見るために，前年度（異集団）との正答率による比較から，同一集団の伸びに着目するような分析の仕方に変えていくよう働きかけており，小・中学校とも少しずつ増加している。一方，「前年度（異集団）との比較による分析」で傾向を判断している学校もまだ多い。

【質問紙 30】 児童生徒の実解答の分析や誤答の反応率（解答類型の分析）等の分析が少しずつ増加しているが，さらに改善を図りたい項目である。今後も，児童生徒の一人ひとりのつまずきを把握して，授業改善等に生かしていくためには，実解答や解答類型等の分析を継続的に促進していくことが必要である。また，今後，ICT機器の導入が進んできた際には，日常の教育活動においても児童生徒の学習記録を蓄積したり，蓄積した記録の誤答分析をしたりするなど，効果的な活用方法の検討も課題となってくる。

【質問紙 29】 諸調査問題の分析や活用については，今年度の調査は中止であったにもかかわらず，小学校で9割，中学校で6割の学校が，活用または活用予定の状況である。調査結果の分析のみならず，調査問題そのものの分析を普段の授業づくりや評価テスト，家庭学習等へ積極的に活用できるように，今後の訪問指導等によりさらに推進していきたい。

イ 授業研究のあり方

【学校質問紙41】 授業改善に向けて、校内研修に位置付けた教員相互の授業参観にどの程度取り組んでいますか。

学年	年	月に1回以上	2か月に1回以上	学期に1回程度	取組んでいない
小学校	R1	29	58	13	1
	R2	25	54	20	1
中学校	R1	25	21	53	1
	R2	16	26	56	3

【学校質問紙42】 校内の授業研究では、児童生徒の発言やノートの記述などに注目し、児童生徒が「何ができるようになったか」という視点で議論を行っていますか。

学年	年	行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	行っていない
小学校	R1	39	52	8	0
			92		8
中学校	R1	17	56	26	1
			73		27
中学校	R2	20	58	19	3
			78		23

【質問紙 41】 今年度は様々な制約のある教育環境の中であったが、学期に複数回の授業参観を実施している学校が（肯定的回答：小学校 79%、中学校 42%）ある。

お互いの授業参観を通して意見交換を重ねていくことは、授業改善につながる効果的な手立ての一つであることから、今後も継続して推進していきたい。

【質問紙 42】 小・中学校のどちらも「何ができるようになったか」という知識・技能の活用の視点で議論している割合が増加している。（小学校5ポイント増加、中学校3ポイント増加）

指導者が計画通り展開できたかだけでなく、児童生徒目線に立った視点で協議する学校が増えてきていると考えられる。

ウ ICTの活用について

【学校質問紙18】 コンピュータ等の情報通信技術（パソコン，タブレット端末，電子黒板，実物投影機，プロジェクター，インターネット等）を活用した授業を1クラス当たりどの程度行っていますか。

学年	年	週1回以上	月1回以上	学期に1回以上	ほとんど、または、全く行っていない
小学校	R1	52	38	9	1
		91		9	
中学校	R2	61	34	5	0
		95		5	
小学校	R1	52	38	9	1
		91		9	
中学校	R2	69	23	7	1
		92		8	

【学校質問紙19】 コンピュータ等の情報通信技術について，授業において主にどのように活用していますか。【複数回答】

学年	年	資料・写真・動画等の掲示	児童生徒の考え(ノート等)の投影	教材アプリの利用	オンライン授業	学習記録の蓄積	その他
小学校	R2	98	49	64	2	23	4
中学校	R2	99	42	44	8	27	4

【学校質問紙20】 プログラミング教育について，教科横断的な視点を踏まえながら計画的に行っていますか。【複数回答】

学年	年	積極的に行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	行っていない
小学校	R2	10	41	45	5
		51		49	
中学校	R2	回答しない			

【質問紙18】 「GIGAスクール構想」の加速も一つの要因であると考えられるが，ICTの活用頻度が高くなっている学校が増加している。今後は，より効果的な利活用がなされるよう，指導者のスキルアップも推進していく必要がある。

【質問紙19】 教材アプリの活用（小学校64%，中学校44%）や学習記録の蓄積（小学校23%，中学校27%）等に活用している学校が出てきている。今後，各校の優れた，効果的な実践例を広めていくことが必要である。

【質問紙20】 小学校のプログラミング教育については，肯定的回答の割合は51%であるが，今後さらに推進を図りたい。

また，指導スキルの研修段階にあることや環境整備等の課題も考えられるが，今後の実施においては，活用する教科に偏りがないように推進していくことも必要である。

エ 家庭学習のあり方

今年度改訂した「確かな学力育成プロジェクト」の全県共通の取組、学校での組織的な対応として「家庭学習の内容の充実と習慣化」の周知を図ってきている。

(ア) 家庭学習の内容

【学校質問紙22】家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えていますか。

学年	年	積極的に与えている	どちらかといえば与えている	あまり与えていない	与えていない
小学校	R1	14	59	27	0
		73		27	
中学校	R1	18	55	27	0
		73		27	
小学校	R1	8	41	48	3
		49		51	
中学校	R2	3	52	44	1
		55		45	

【学校質問紙23】各教科において、学年をまたいで単元・領域の系統性を生かした問題等に、年間を通じて計画的・継続的に取り組ませていますか。

学年	年	取り組ませている	どちらかといえば取り組ませている	あまり取り組ませない	取り組ませない
小学校	R1	16	47	36	1
		63		37	
中学校	R2	14	49	34	3
		63		37	
小学校	R1	17	41	42	1
		57		43	
中学校	R2	14	47	36	3
		61		39	

【質問紙 22・23】中学校の肯定的回答の割合が増加している。全国学調や県学調等の結果や調査問題の分析を活用する等の内容の工夫改善を進めている学校が増えていることが考えられる。

基礎・基本の定着を重視した反復内容中心にならず、児童生徒の実態を踏まえて、事柄・方法・根拠等を記述する課題やつまづきを生かした課題の克服に焦点化して取り組むことが大切である。

(イ) 家庭学習の時間

【児童生徒質問紙8】

学校の授業以外で、平日にどれくらいの時間、勉強しますか。

学年	年	3時間以上	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	30分以上 1時間より 少ない	30分より 少ない	全くしない
小学5年	R1	5	13	51	25	4	1
	R2	9	15	49	22	4	1
中学2年	R1	3	15	56	19	6	1
	R2	6	19	47	20	5	2

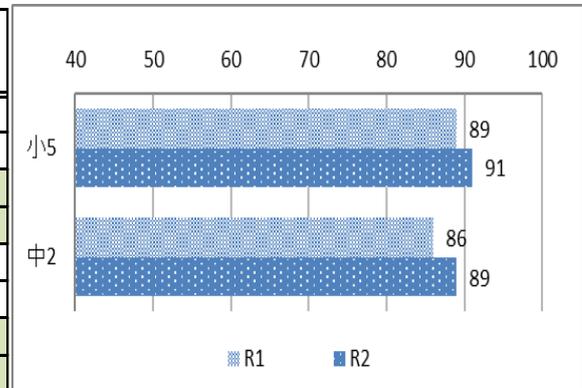
家庭学習2時間以上の児童生徒の割合は、小・中学校ともに増加している。学校において、内容の工夫改善が図られたことに加え、今年度は様々な制約のある教育環境の中で、家庭での時間が増えたことが考えられる。今後も、授業と連動した工夫や、家庭や地域との連携も強化しながら、内容、取り組ませ方、その分量や点検方法等について、共通理解を図っていく必要がある。

(3) 学習内容の理解と興味・関心について

児童生徒質問紙調査から、4教科と、英語（小・外国語活動）についての学習内容の理解状況（「分かる」及び「好き」）は次のような結果となった。【※グラフは肯定的回答を表示】

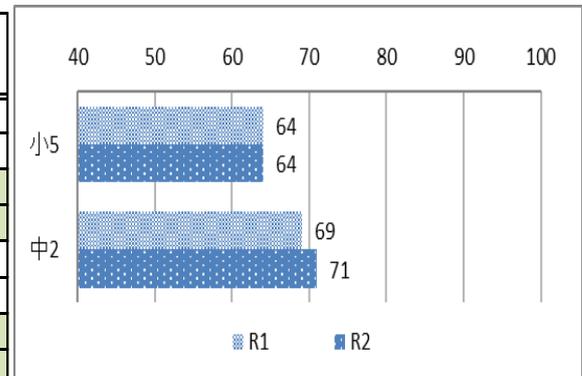
国語の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえは分かる	どちらかといえは分からない	分からない
小学5年	R1	41	48	8	3
		89		11	
	R2	43	48	7	2
		91		9	
中学2年	R1	31	55	13	1
		86		14	
	R2	37	52	9	2
		89		11	



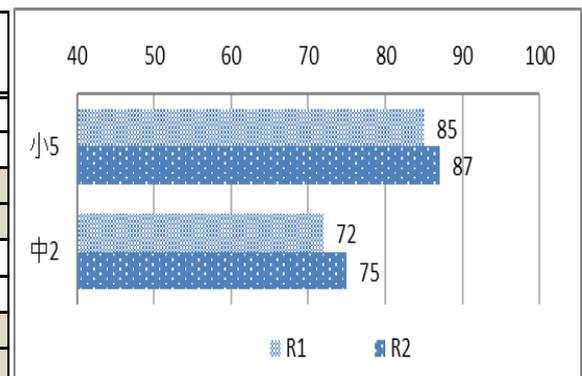
国語の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえは好き	どちらかといえは好きではない	好きではない
小学5年	R1	25	39	23	13
		64		36	
	R2	25	39	24	12
		64		36	
中学2年	R1	27	42	24	8
		69		32	
	R2	28	43	21	8
		71		29	



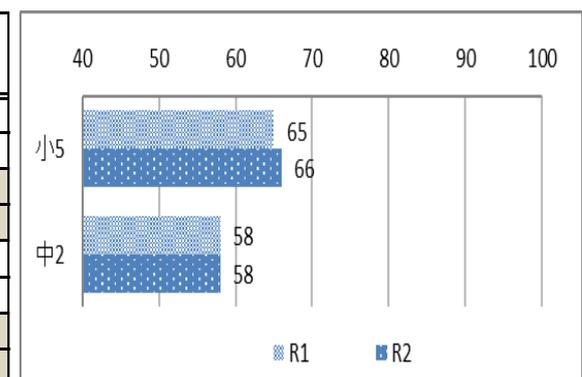
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえは分かる	どちらかといえは分からない	分からない
小学5年	R1	46	39	11	4
		85		15	
	R2	48	39	10	3
		87		13	
中学2年	R1	35	37	21	8
		72		29	
	R2	36	39	18	7
		75		25	



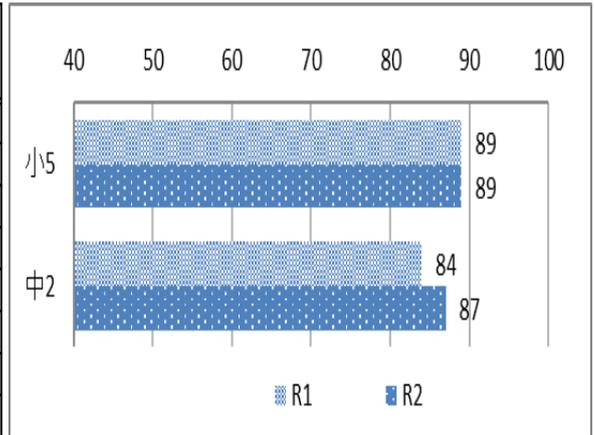
算数・数学の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえは好き	どちらかといえは好きではない	好きではない
小学5年	R1	38	27	20	15
		65		35	
	R2	38	28	19	15
		66		34	
中学2年	R1	30	28	25	17
		58		42	
	R2	29	29	25	17
		58		42	



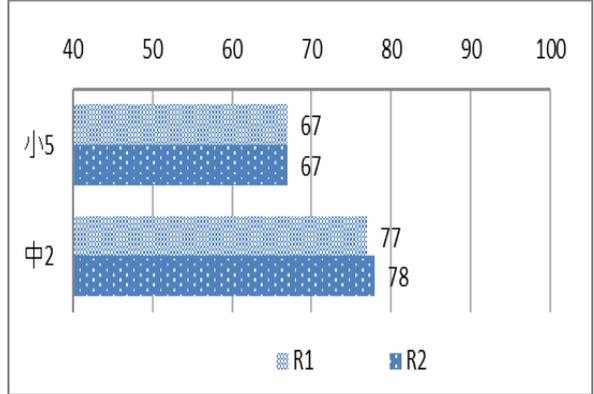
社会の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえは分かる	どちらかといえは分からない	分からない
小学5年	R1	49	40	8	3
			89	11	
小学5年	R2	50	39	9	2
			89	11	
中学2年	R1	44	40	12	4
			84	16	
中学2年	R2	46	41	10	3
			87	13	



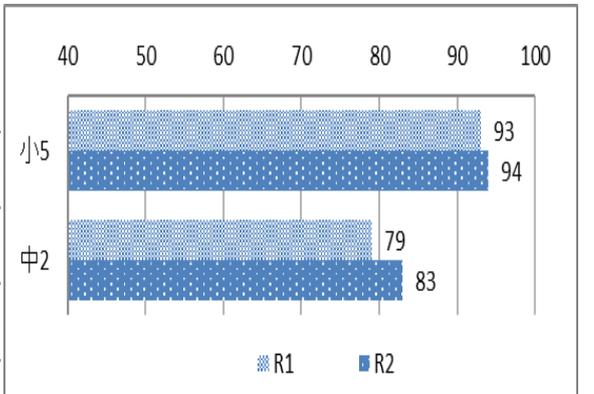
社会の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえは好き	どちらかといえは好きではない	好きではない
小学5年	R1	35	32	20	13
			67	33	
小学5年	R2	34	33	21	12
			67	33	
中学2年	R1	42	35	16	8
			77	24	
中学2年	R2	43	35	16	7
			78	23	



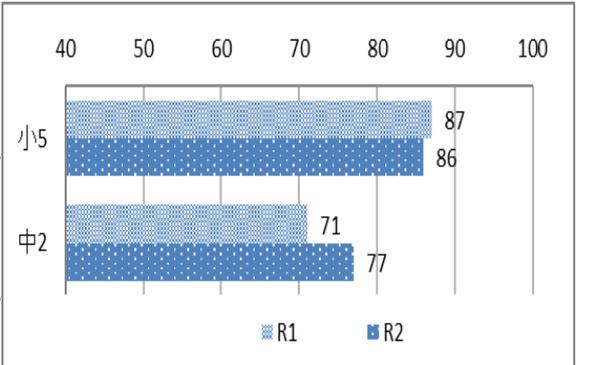
理科の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえは分かる	どちらかといえは分からない	分からない
小学5年	R1	63	30	4	2
			93	6	
小学5年	R2	63	31	5	1
			94	6	
中学2年	R1	33	46	15	6
			79	21	
中学2年	R2	39	44	13	4
			83	17	



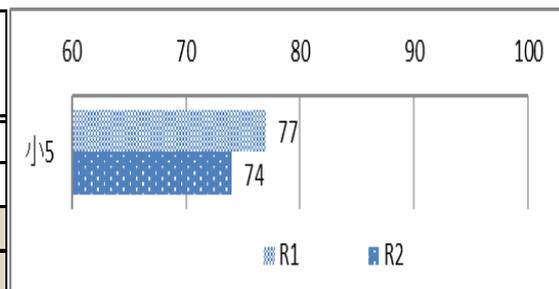
理科の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえは好き	どちらかといえは好きではない	好きではない
小学5年	R1	60	27	8	4
			87	12	
小学5年	R2	58	28	9	5
			86	14	
中学2年	R1	34	37	21	9
			71	30	
中学2年	R2	40	37	16	7
			77	23	



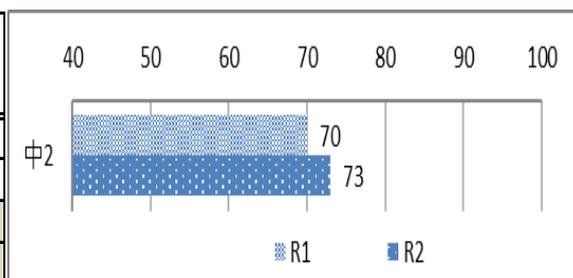
外国語活動の授業は好きですか。【小学校】

学年	年	好き	どちらかといえは好き	どちらかといえは好きではない	好きではない
小学5年	R1	48	29	14	9
		77		23	
	R2	42	32	16	10
		74		26	



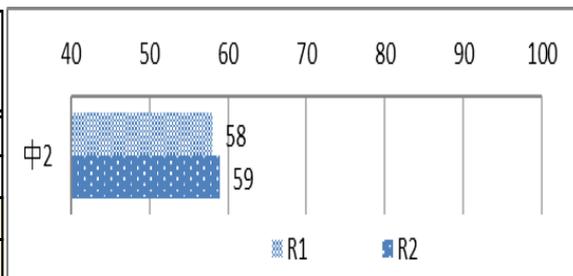
英語の授業の内容はよく分かりますか。【中学校】

学年	年	よく分かる	どちらかといえは分かる	どちらかといえは分からない	分からない
中学2年	R1	25	45	20	10
		70		30	
	R2	31	42	19	8
		73		27	



英語の勉強は好きですか。【中学校】

学年	年	好き	どちらかといえは好き	どちらかといえは好きではない	好きではない
中学2年	R1	25	33	26	16
		58		42	
	R2	27	32	25	16
		59		41	



各教科の「授業の内容がよくわかる」の積極肯定を見ると、中学校の国語、理科、英語で6ポイント増加している。また、「勉強が好き」の積極肯定については、中学校理科で6ポイント増加、小学校外国語活動で6ポイント減少している。

各教科において、学習指導要領改訂より「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善の周知徹底が、各種研修会や訪問指導等で効果的に行われていると考えられる。特に、中学校理科においては、諸調査の分析結果からわかるつまずきを生かした授業展開例の共有、中学校英語については、教育事務所と市町村教育委員会の指導主事による全校訪問指導が効果的に成果につながっていると考えられる。

一方、小学校外国語については、新学習指導要領において教科化になったことも要因の一つと考えられる。指導者も試行錯誤しながら授業を進めている状況もあることから、授業づくり等に対する不安や悩みに寄り添えるような研修会や訪問指導の実施が必要である。

全体的に見ると、学習への興味・関心の「好き」と理解の「わかる」の結果については、「わかる」という肯定的回答の割合に比べ、「好き」という肯定的回答の割合が低い傾向にある。教科の必要感や有用感を伝える授業を目指して、「おもしろい」と思わせる授業づくりの促進が必要である。

(4) 児童生徒の自己肯定感について

【児童生徒質問紙2】 自分にはよいところがあると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	29	47	16	8
		76	24		
小学5年	R2	28	46	18	8
		74	26		
中学2年	R1	18	47	24	11
		65	35		
中学2年	R2	25	47	20	8
		72	28		

【児童生徒質問紙17】 先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかとい えば そう思う	どちらかとい えば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	36	43	14	7
		79	21		
小学5年	R2	36	44	14	6
		80	20		
中学2年	R1	28	51	14	7
		79	21		
中学2年	R2	35	48	12	5
		83	17		

【児童生徒質問紙23】 学級は、お互いに助け合ったり、お互いのよさを認め合ったりできている学級だと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかとい えば そう思う	どちらかとい えば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	45	38	12	4
		83	16		
小学5年	R2	49	37	11	3
		86	14		
中学2年	R1	46	38	12	4
		84	16		
中学2年	R2	48	40	9	3
		88	12		

【学校質問紙5】 学習活動の中において、児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけて評価(褒めるなど)する取組を行っていますか。

学年	年	積極的に 行っている	どちらかとい えば 行っている	あまり 行っていない	行っていない
小学校	R1	70	29	1	0
		99	1		
小学校	R2	78	22	0	0
		100	0		
中学校	R1	53	46	1	0
		99	1		
中学校	R2	64	34	2	0
		98	2		

【質問紙2】 昨年度調査対象学年と比較すると、積極肯定の割合について小学校は1ポイント減少、中学校は7ポイント増加であった。中学校においては、家庭で過ごす時間や自分と向き合う時間が増えたことが良い影響を与えていると考えられる。

【質問紙17・23】 積極肯定の割合が増加している。自他を認め合う学級づくりや、間違いを認め合う雰囲気づくりが、児童生徒に良い影響を与えている学校が増えていると考えられる。

今後も、全ての教育活動において、他者から認められる経験を通して自己の成長を実感できるよう、児童生徒の褒める場面を増やししながら、いかに成長したかを積極的に受け止め、認めて、励ます評価を行っていくことが大切である。

(5) メディア利用における児童生徒への影響について

【児童生徒質問紙6】 平日にどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを観ますか。

学年	年	4時間以上	3時間以上 4時間より 少ない	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全く観ない
小学5年	R1	12	17	25	28	16	3
	R2	15	18	25	26	14	2
中学2年	R1	11	17	29	30	11	2
	R2	13	15	27	31	13	1

【児童生徒質問紙7】 平日にどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで電話やメール、ゲーム、インターネット(LINEなどのSNSを含む)を利用しますか。

学年	年	4時間以上	3時間以上 4時間より 少ない	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	1時間より 少ない	持っていない 全くしない
小学5年	R1	2	3	5	10	35	44
	R2	10	10	16	25	25	13
中学2年	R1	9	16	22	30	16	6
	R2	11	13	22	29	19	7

【質問紙6】 小学校においては「3時間以上」、中学校においては「4時間以上」の視聴時間の割合が増加している。

【質問紙7】 小学校において、「2時間以上の利用」が大きく増加している。

以上のことについて、【質問紙8】(P7)における「家庭学習2時間以上」の割合と比較したとき、「テレビやビデオ等の視聴時間2時間以上」や「携帯電話やスマートフォンの利用時間2時間以上」の割合の方がかなり高い状況にあり、家庭における時間の使い方に課題があると考えられる。学校、家庭、地域で連携しながら、改めてメディア利用のメリットやデメリット、ルール等を確認していくことが必要である。

4 今後の取組

各学校においては、調査結果の活用にあたって留意すべき視点を以下のようにまとめた。

- (1) 県比較のみではなく、選択肢毎の集団の分布状況を見て、自校の現状に合った事後指導及び検証改善サイクル（CAPD）を構築すること。
- (2) 学校の課題が明らかになった質問項目の要因を分析し、学習習慣や生活習慣の改善につなげること。
- (3) 各学校で日常的に蓄積している様々な学習評価と、本意識調査との相関で見るなど、データを多面的に見て分析すること。
- (4) 全国学調や新入生学調問題を教材研究や授業の材料、評価問題等の参考として活用しながら、当該学年・教科のみの取組とせず、学校として組織的な取組を行うこと。
- (5) 調査結果を活用した一層の校種間連携を図ること。

【例】① 教科毎の児童生徒のつまずきのある苦手分野について分析結果資料等で共有

ア 中学校が同じ校区内の小学校に各種調査の結果を提供する

イ 小中合同研修会の際に教員同士で学力の分析や取組を情報交換するなど

ウ 諸調査の分析結果について、小中学校で成果や課題を共有する

② 児童生徒のつまずきのある苦手分野についての授業改善方法の共有（授業参観及び研究協議等の促進）

各市町村教育委員会においては、各学校が調査結果から見られた課題等を次年度の指導計画へ確実に反映させ、教育活動全体の改善に積極的に取り組むことができるよう、より一層の支援が大切である。

また、県教育委員会としては、今後、以下の点などについて取り組んでいく。

- (1) 「いわての授業づくり3つの視点（改訂版）」を、積極的に活用した授業改善をより一層推進する。
- (2) 各学校における調査結果の分析を活用したPDCAサイクルを基にした指導改善計の作成及び実践について、各種研修会や指導主事による訪問指導等を通じて、継続的な支援を強化し、改善・充実を図る。
- (3) 「諸調査結果を効果的に活用して組織的に対応している学校の実践事例」の普及・拡大に継続して取り組む。

令和2年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査 学校質問紙調査結果

参考資料

2020/10/5時点で回答

2019/10/2時点で回答

R2の状況

	小学校	中学校
回答校数	302	151

R1の状況

	小学校	中学校
回答校数	310	158

※小学校に義務教育学校前期課程、中学校に同じく後期課程を含む

※小学校は項目1～26までは300校の回答（調査対象者がいない学校があるため）

【授業】（学習調査対象学年）

1 児童生徒に示す目標(めあて・ねらい)は、児童生徒の実態や、その時間に扱う学習内容に適したものとなるよう、吟味して示していますか。

	小学校	中学校
1		
している	221	104
どちらかといえばしている	79	47
あまりしていない	0	0
していない	0	0

	小学校	中学校
している	229	113
どちらかといえばしている	80	44
あまりしていない	0	0
していない	0	0

◎ 2 授業で行う振り返りは、児童生徒自身が学習の成果(又は課題)を実感できる振り返りとなっていますか。

	小学校	中学校
2		
なっている	122	50
どちらかといえばなっている	173	100
あまりなっていない	5	1
なっていない	0	0

	小学校	中学校
なっている	135	50
どちらかといえばなっている	171	106
あまりなっていない	3	1
なっていない	0	0

3 児童生徒が、本時の指導目標が達成できたかどうかを、教師が主にどのような手段で確認していますか。【複数回答】

	小学校	中学校
3		
児童生徒の自己評価や相互評価	242	129
評価問題	273	126
観察	258	123
ノートやワークシート	289	139
挙手や発言	257	102
その他	7	9

	小学校	中学校
児童生徒の自己評価や相互評価	241	143
評価問題	257	129
観察	251	126
ノートやワークシート	290	129
挙手や発言	239	101
その他	9	5

4 言語活動の充実に向けて、国語科だけではなく、各教科、道徳、（小学校外国語活動）、総合的な学習の時間及び特別活動などを通じて、学校全体として取り組んでいますか。

	小学校	中学校
4		
積極的に取り組んでいる	172	81
どちらかといえば取り組んでいる	122	68
あまり取り組んでいない	6	2
取り組んでいない	0	0

	小学校	中学校
積極的に取り組んでいる	153	68
どちらかといえば取り組んでいる	152	85
あまり取り組んでいない	4	4
取り組んでいない	0	0

5 学習活動の中において、児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけて評価(褒めるなど)する取組を行っていますか。

	小学校	中学校
5		
積極的に行っている	233	96
どちらかといえば行っている	66	52
あまり行っていない	1	3
行っていない	0	0

	小学校	中学校
積極的に行っている	217	83
どちらかといえば行っている	89	72
あまり行っていない	3	2
行っていない	0	0

6 児童生徒が分からなかったところや理解していないところを明らかにさせ、解決して(させて)いますか。

	小学校	中学校
6		
積極的に行っている	123	34
どちらかといえば行っている	176	112
あまり行っていない	1	5
行っていない	0	0

	小学校	中学校
積極的に行っている	155	46
どちらかといえば行っている	152	108
あまり行っていない	2	3
行っていない	0	0

7 学習の流れや児童生徒の実態に応じて、考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問を意図的・計画的に行っていますか。

	小学校	中学校
7		
積極的に行っている	148	59
どちらかといえば行っている	150	90
あまり行っていない	2	2
行っていない	1	0

	小学校	中学校
積極的に行っている	129	51
どちらかといえば行っている	173	104
あまり行っていない	6	2
行っていない	1	0

8 児童生徒の応答に切り返したり、ある児童生徒の応答を受けて他の児童生徒に発問するなど、学級全体が問題解決に向かうよう発問をつないでいますか。

	小学校	中学校
8		
積極的に行っている	145	44
どちらかといえば行っている	154	99
あまり行っていない	1	8
行っていない	0	0

	小学校	中学校
積極的に行っている	134	41
どちらかといえば行っている	166	105
あまり行っていない	9	11
行っていない	0	0

◎ 9 授業を進める際、児童生徒の間違いを認める雰囲気を作っていますか。

	小学校	中学校
9		
進めている	216	103
どちらかといえば進めている	83	47
あまり進んでいない	1	1
進んでいない	0	0

	小学校	中学校
進めている	221	92
どちらかといえば進めている	88	64
あまり進んでいない	0	1
進んでいない	0	0

10 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど)の指導を徹底していますか。

	小学校	中学校
10		
徹底している	135	68
どちらかといえば徹底している	160	78
あまり徹底していない	5	5
徹底していない	0	0

	小学校	中学校
徹底している	143	78
どちらかといえば徹底している	159	74
あまり徹底していない	7	5
徹底していない	0	0

11 学習方法(自分の解き方や考え方がわかるようにノートをとることや、間違いを振り返って学習するなど)に関する指導をしていますか。

	小学校	中学校
11		
している	170	67
どちらかといえばしている	120	81
あましていない	10	3
していない	0	0

	小学校	中学校
している	164	67
どちらかといえばしている	136	80
あましていない	9	10
していない	0	0

12 児童生徒に対して、根拠や理由を示しながら、自分の考えを説明できるように指導していますか。

	小学校	中学校
12		
している	169	59
どちらかといえばしている	128	89
あましていない	3	3
していない	0	0

	小学校	中学校
している	168	64
どちらかといえばしている	133	87
あましていない	8	6
していない	0	0

◎ 13 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。

	小学校	中学校
13		
している	108 36%	47 31%
どちらかといえばしている	183 61%	96 64%
あまりしていない	9 3%	8 5%
していない	0 0%	0 0%

小学校	中学校
105 34%	49 31%
187 61%	100 64%
17 6%	8 5%
0 0%	0 0%

14 どの児童生徒も伸ばすことを意識して、発展的な学習の指導を行っていますか。

	小学校	中学校
14		
行っている	48 16%	18 12%
どちらかといえば行っている	195 65%	96 64%
あまり行っていない	57 19%	37 25%
行っていない	0 0%	0 0%

小学校	中学校
47 16%	26 17%
196 65%	96 64%
66 22%	35 23%
0 0%	0 0%

15 年間の算数・数学の授業で、学習内容に応じて、チームティーチングによる指導をどのくらい行っていますか。

	小学校	中学校
15		
年間の授業のうち、およそ 3/4 以上で行った	63 21%	62 41%
年間の授業のうち、およそ 1/2 以上 3/4 未満で行った	37 12%	20 13%
年間の授業のうち、およそ 1/4 以上 1/2 未満で行った	38 13%	23 15%
年間の授業のうち、およそ 1/4 未満で行った	38 13%	11 7%
行っていない	124 41%	35 23%

小学校	中学校
68 22%	68 43%
42 14%	19 12%
23 7%	16 10%
44 14%	11 7%
132 43%	43 27%

16 年間の算数・数学の授業で、学習内容に応じて、習熟度別の少人数による指導をどのくらい行っていますか。

	小学校	中学校
16		
年間の授業のうち、およそ 3/4 以上で行った	13 4%	7 5%
年間の授業のうち、およそ 1/2 以上 3/4 未満で行った	22 7%	7 5%
年間の授業のうち、およそ 1/4 以上 1/2 未満で行った	18 6%	4 3%
年間の授業のうち、およそ 1/4 未満で行った	48 16%	19 13%
行っていない	199 66%	114 75%

小学校	中学校
21 7%	12 8%
10 3%	3 2%
22 7%	1 1%
51 17%	24 15%
205 66%	117 75%

17 数学の授業における指導と評価の改善に「いわて五ツ星の授業づくり」「中学校数学GアップシートEX」をどのように活用していますか。【複数回答】

	小学校	中学校
17		
授業づくり(教材研究)		95 63%
実際の授業や家庭学習等		104 69%
評価テスト		62 41%
その他		12 8%

小学校	中学校
87 28%	108 69%
65 21%	110 70%
15 5%	68 43%
32 10%	7 4%

18 コンピュータ等の情報通信技術(パソコン、タブレット端末、電子黒板、実物投影机、プロジェクター、インターネット等)を活用した授業を1クラス当たりどの程度行っていますか。

	小学校	中学校
18		
週1回以上	182 61%	104 69%
月1回以上	103 34%	35 23%
学期に1回以上	15 5%	10 7%
ほとんど、または、全く行っていない	0 0%	2 1%

小学校	中学校
162 52%	88 56%
118 38%	45 29%
27 9%	23 15%
2 1%	1 1%

19 コンピュータ等の情報通信技術について、授業において主にどのように活用していますか。【複数回答】

	小学校	中学校
19		
資料・写真・動画等の提示	295 98%	150 99%
児童生徒の考え(ノート等)の投影	146 49%	64 42%
教材アプリの利用	192 64%	66 44%
オンライン授業	5 2%	12 8%
学習記録の蓄積	69 23%	40 26%
その他	13 4%	6 4%

小学校	中学校
令和2年度新規	

20 プログラミング教育について、教科横断的な視点を踏まえながら計画的に行っていますか。【複数回答】

	小学校	中学校
20		
行っている	30 10%	
どちらかといえば行っている	122 41%	
あまり行っていない	134 45%	
行っていない	14 5%	

小学校	中学校
令和2年度新規	

【家庭学習】

21 授業内容の理解を促進する家庭学習の課題(宿題)を、計画的に出していますか。(小5算数、中2数学・英語)

	小学校	中学校
21		
出している	232 77%	92 61%
どちらかといえば出している	67 22%	52 34%
あまり出していない	1 0%	7 5%
出していない	0 0%	0 0%

小学校	中学校
250 81%	95 61%
56 18%	57 36%
3 1%	5 3%
0 0%	0 0%

22 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えていますか。

	小学校	中学校
22		
積極的に与えている	54 18%	5 3%
どちらかといえば与えている	164 55%	78 52%
あまり与えていない	82 27%	67 44%
与えていない	0 0%	1 1%

小学校	中学校
44 14%	12 8%
181 59%	65 41%
83 27%	75 48%
1 0%	5 3%

23 各教科において、学年をまたいで単元・領域の系統性を生かした問題等に、年間を通じて計画的・継続的に取り組ませていますか。

	小学校	中学校
23		
取り組ませている	41 14%	21 14%
どちらかといえば取り組ませている	148 49%	71 47%
あまり取り組ませしていない	103 34%	54 36%
取り組ませしていない	8 3%	5 3%

小学校	中学校
49 16%	26 17%
145 47%	64 41%
112 36%	66 42%
3 1%	1 1%

24 家庭学習の取り組みせ方や内容、分量、点検方法等について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。

	小学校	中学校
24		
図っている	165 55%	65 43%
どちらかといえば図っている	127 42%	70 46%
あまり図っていない	8 3%	16 11%
図っていない	0 0%	0 0%

小学校	中学校
161 52%	70 45%
134 43%	65 41%
14 5%	22 14%
0 0%	0 0%

25 家庭学習の意義や取り組み方について、主にどのような方法で保護者と共通理解を図っていますか。【複数回答】

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
保護者会等での説明	118	39%	26	17%	200	65%	57	36%
期末面談等における面談	62	21%	91	60%	44	14%	79	50%
学校だより等における周知	115	38%	32	21%	60	19%	17	11%
その他	5	2%	2	1%	5	2%	4	3%

26 家庭学習の結果から見られた児童生徒のつまずきを、授業や補充学習等に反映させ、その克服を図っていますか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
図っている	99	33%	21	14%	91	29%	22	14%
どちらかといえば図っている	181	60%	87	58%	187	61%	99	63%
あまり図っていない	19	6%	42	28%	29	9%	36	23%
図っていない	1	0%	1	1%	2	1%	0	0%

【学校の取組】

27 全国学調、県学調について、具体的にどのような目標を設定して計画的に取り組みましたか。【複数回答】

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
教科調査の正答率と県平均の差	260	86%	131	87%	244	79%	135	85%
教科調査の正答率	216	72%	88	58%	201	65%	88	56%
教科調査の無解答率と県平均の差	84	28%	36	24%	73	24%	37	23%
教科調査の無解答率	105	35%	46	30%	124	40%	46	29%
児童生徒質問紙の結果の分布	184	61%	110	73%	172	55%	97	61%
同一集団の経年比較	109	36%	63	42%	88	28%	58	37%

28 昨年度の県学調の問題（一部を含む）を全教員で解いて、出題の趣旨を分析し共通理解する時間を設定しましたか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
設定し、実施した	174	58%	41	27%	87	28%	29	18%
設定し、年度中に実施予定である	96	32%	60	40%	206	66%	102	65%
設定していない	32	11%	50	33%	17	5%	27	17%

29 全国学調の問題（一部を含む）を全教員で解いて、出題の趣旨を分析し共通理解する時間を設定しましたか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
設定し、実施した	154	51%	34	23%	196	63%	54	34%
設定し、年度中に実施予定である	127	42%	62	41%	103	33%	80	51%
設定していない	21	7%	55	36%	11	4%	24	15%

30 昨年度の教科調査の結果分析の際、何をを用いて行っていますか。【複数回答】

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
教科全体の正答率	241	80%	125	83%	241	78%	132	84%
問題ごとの正答率	288	95%	132	87%	299	96%	142	90%
分布状況	133	44%	75	50%	159	51%	90	57%
誤答の反応率	123	41%	47	31%	116	37%	43	27%
児童生徒の記述内容（実解答）	121	40%	47	31%	137	44%	47	30%

31 昨年度の諸調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
活用した	187	62%	71	47%	206	66%	81	51%
どちらかといえば活用した	113	37%	72	48%	101	33%	75	47%
あまり活用していない	2	1%	8	5%	3	1%	2	1%

32 昨年度の県学調の結果を全国学調と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
行った	151	50%	53	35%	171	55%	65	41%
どちらかといえば行った	133	44%	86	57%	126	41%	83	53%
あまり行っていない	18	6%	12	8%	13	4%	10	6%

33 昨年度の県学習定着度状況調査の「集計・分析シート」の内容等から、学習に関する状況や課題を全ての教員で共有し、学校として組織的に課題の分析や指導方法の改善等に取り組んでいますか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
取り組んでいる	137	45%	47	31%	153	49%	54	34%
どちらかといえば取り組んでいる	148	49%	85	56%	146	47%	87	55%
あまり取り組んでいない	15	5%	19	13%	10	3%	17	11%
取り組んでいない	2	1%	0	0%	1	0%	0	0%

34 昨年度に作成した『「確かな学び、豊かな学び」実現プラン』等に記載した調査結果の分析内容や目標設定、取組計画 などについて、年度をまたいで教職員間で共有し、指導改善に向けて活用していますか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
活用している	146	48%	48	32%	164	53%	77	49%
どちらかといえば活用している	138	46%	86	57%	131	42%	65	41%
あまり活用していない	17	6%	17	11%	13	4%	16	10%
活用していない	1	0%	0	0%	2	1%	0	0%

◎ 35 本年度の全国学調の自校の分析結果から見えた児童生徒のつまずきに対応した授業改善を行っていますか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
行っている	今年度は回答を求めず				122	39%	49	31%
どちらかといえば行っている					172	55%	99	63%
あまり行っていない					13	4%	9	6%
行っていない					3	1%	1	1%

36 昨年度の学校評価を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
働きかけをし、協力を得ている	284	94%	128	85%	134	43%	47	30%
働きかけたが、協力を得られない	9	3%	9	6%	139	45%	83	53%
働きかけていない	9	3%	14	9%	37	12%	28	18%

37 本年度の全国学調の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
行った	今年度は回答を求めず				153	49%	74	47%
行っていない					157	51%	84	53%

38 本年度の全国学調の分析結果について、同一地区の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか。

	小学校		中学校		小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
共有した	今年度は回答を求めず				120	39%	70	44%
共有していない					190	61%	88	56%
小学校のため活用なし					305	98%	0	0%

39 「学習状況調査等の過去の調査問題の効果的な活用のガイドライン」について、全教員で共通理解を図っていますか。

39	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
図っている	65	22%	22	15%
どちらかといえば図っている	168	56%	80	53%
どちらかといえば図っていない	58	19%	43	28%
図っていない	11	4%	6	4%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
214	69%	103	65%
96	31%	55	35%

40 「学習状況調査等の過去の調査問題の効果的な活用のガイドライン」に沿って、過去の諸調査問題を適切に活用しましたか。

40	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
積極的に活用した	79	26%	23	15%
活用した	164	54%	75	50%
あまり活用していない	59	20%	53	35%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
72	23%	10	6%
199	64%	90	57%
39	13%	58	37%

41 授業改善に向けて、校内研修に位置付けた教員相互の授業参観にどの程度取り組んでいますか。

41	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
月に1回以上	75	25%	24	16%
2か月に1回程度	164	54%	39	26%
学期に1回程度	61	20%	84	56%
取組んでいない	2	1%	4	3%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
90	29%	40	25%
179	58%	33	21%
39	13%	83	53%
2	1%	2	1%

42 校内の授業研究では、児童生徒の発言やノートの記述などに注目し、児童生徒が「何ができるようになったか」という視点で議論を行っていますか。

42	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
行っている	133	44%	30	20%
どちらかといえば行っている	152	50%	87	58%
あまり行っていない	16	5%	29	19%
行っていない	1	0%	5	3%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
122	39%	27	17%
162	52%	88	56%
26	8%	41	26%
0	0%	2	1%

43 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。

43	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	237	78%	65	43%
週に2~3回程度	52	17%	58	38%
月に数回程度	13	4%	25	17%
ほとんど行ってない	0	0%	3	2%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
228	74%	67	42%
67	22%	67	42%
15	5%	24	15%
0	0%	0	0%

44 Gアップシートを活用(授業の補充、家庭学習等)していますか。

44	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
活用している			51	34%
どちらかといえば活用している			67	44%
あまり活用していない			30	20%
ほとんど行ってない			3	2%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
令和2年度新規			

45 平日の部活動や父母会の活動、スポーツ少年団等の活動について、児童生徒の帰宅時間が遅くならないよう、部活動顧問や父母会・スポーツ少年団活動の責任者や指導者等との連携を図っていますか。【複数回答】

45	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
図っている	56	19%	112	74%
どちらかといえば図っている	88	29%	29	19%
あまり図っていない	73	24%	4	3%
図っていない	40	13%	1	1%
帰宅時間が遅くなる活動はない	45	15%	5	3%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
49	16%	115	73%
76	25%	35	22%
97	31%	3	2%
38	12%	0	0%
50	16%	5	3%

46 幼保小の円滑な連携のための「スタートカリキュラム」を具体的に編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

46	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
している	138	46%		
どちらかといえばしている	131	43%		
あまりしていない	27	9%		
していない	6	2%		

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
73	24%	4	3%
149	48%	12	8%
68	22%	4	3%
20	6%	138	87%

47 同一校区の小学校(中学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、共通の取組を行っていますか。

47	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
行っている	79	26%	40	26%
どちらかといえば行っている	96	32%	39	26%
あまり行っていない	97	32%	49	32%
行っていない	30	10%	23	15%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
82	26%	42	27%
108	35%	43	27%
87	28%	58	37%
33	11%	15	9%

48 同一校区の小学校(中学校)と、家庭における学習・生活習慣等について、共通の取組を行っていますか。

48	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
行っている	256	85%	112	74%
どちらかといえば行っている	34	11%	22	15%
あまり行っていない	11	4%	10	7%
行っていない	1	0%	7	5%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
254	82%	118	75%
37	12%	20	13%
13	4%	13	8%
6	2%	7	4%

49 各教科等の特質に応じ、家庭や地域社会と連携しつつ、体系的・継続的な体験活動ができるよう工夫していますか。

49	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
工夫している	154	51%	52	34%
どちらかといえば工夫している	133	44%	72	48%
あまり工夫していない	15	5%	25	17%
工夫していない	0	0%	2	1%

小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
164	53%	63	40%
134	43%	71	45%
11	4%	22	14%
1	0%	2	1%

50 伝統的な文化芸術活動を学習または発表する活動を行っていますか。

50	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
行っている	192	64%	73	48%
どちらかといえば行っている	41	14%	19	13%
あまり行っていない	36	12%	26	17%
行っていない	33	11%	33	22%

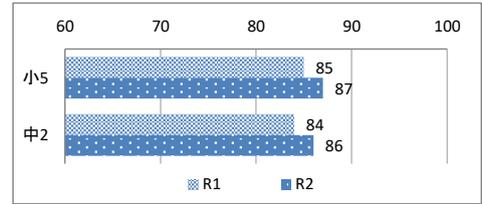
小学校		中学校	
人数	割合	人数	割合
212	68%	81	51%
53	17%	29	18%
29	9%	30	19%
16	5%	18	11%

令和2年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査 児童生徒質問紙調査結果

※小学5年には義務教育学校第5学年、中学2年には義務教育学校第8学年が含まれます。

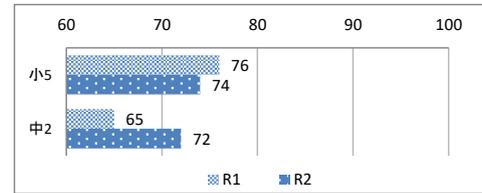
1 学校に行くのは楽しいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	50	35	10	5
	R2	85	15	9	4
中学2年	R1	42	42	9	7
	R2	51	35	10	4
		87	13	86	14



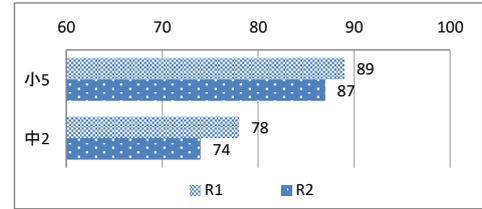
2 自分にはよいところがあると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	29	47	16	8
	R2	28	46	18	8
中学2年	R1	18	47	24	11
	R2	25	47	20	8
		74	26	72	28



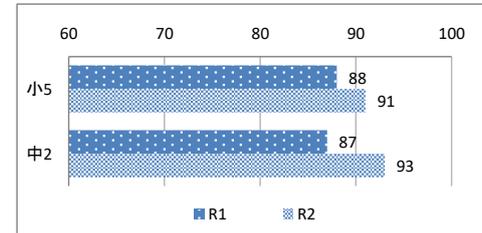
3 あなたは将来の夢や目標をもっていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	69	20	7	4
	R2	66	21	8	5
中学2年	R1	46	32	14	8
	R2	42	32	17	9
		87	13	74	26



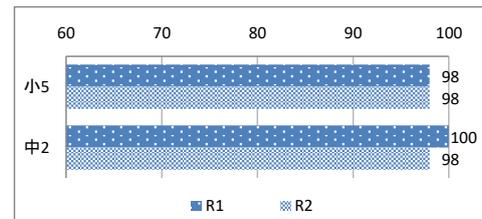
4 新聞、テレビ、インターネットなどでニュースを見ますか。

学年	年	ほぼ毎日 読んでいる	週に1~3回 程度読んでいる	どちらかといえば 見ない	ほとんどまたは 全く見ない
小学5年	R1	61	27	7	5
	R2	66	25	7	5
中学2年	R1	64	23	10	3
	R2	71	22	5	2
		91	12	93	7



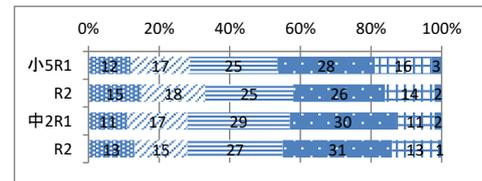
5 携帯電話やスマートフォンを使う時は、安全に正しく使うことが大切だと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	90	8	1	1
	R2	90	8	1	1
中学2年	R1	84	16	0	0
	R2	87	11	1	1
		98	2	100	0



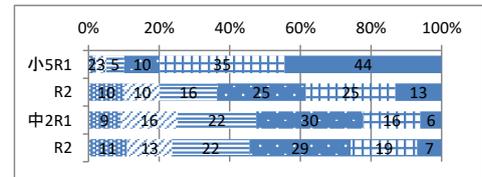
6 平日にどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを観ますか。

学年	年	4時間以上	3時間以上 4時間より 少ない	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全く観ない
小学5年	R1	12	17	25	28	16	3
	R2	15	18	25	26	14	2
中学2年	R1	11	17	29	30	11	2
	R2	13	15	27	31	13	1



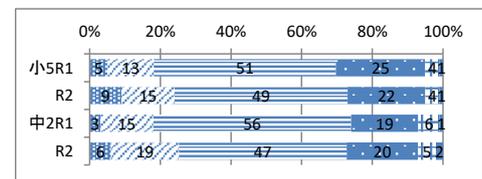
7 平日にどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで電話やメール、ゲーム、インターネット (LINEなどのSNSを含む) を利用しますか。

学年	年	4時間以上	3時間以上 4時間より 少ない	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	1時間より 少ない	持っていない 全くしない
小学5年	R1	2	3	5	10	35	44
	R2	10	10	16	25	25	13
中学2年	R1	9	16	22	30	16	6
	R2	11	13	22	29	19	7



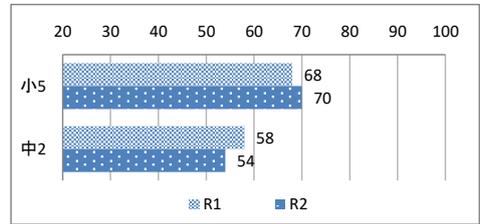
8 学校の授業以外で、平日にどれくらいの時間、勉強しますか。

学年	年	3時間以上	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	30分以上 1時間より 少ない	30分より 少ない	全くしない
小学5年	R1	5	13	51	25	4	1
	R2	9	15	49	22	4	1
中学2年	R1	3	15	56	19	6	1
	R2	6	19	47	20	5	2



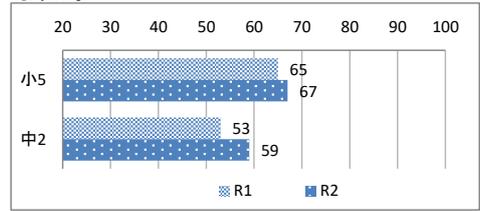
9 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

学年	年	している	どちらかといえば している	どちらかといえば していない	していない
小学5年	R1	29	39	20	12
	R2	32	38	20	10
中学2年	R1	17	41	26	16
	R2	16	38	30	16
		54		46	



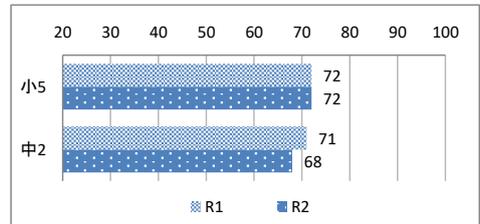
10 学校の宿題などに加え、弱点を克服する学習に取り組んだり、発展的な問題に取り組んだりしていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	22	43	25	10
	R2	23	44	23	10
中学2年	R1	13	40	33	14
	R2	16	43	29	12
		59		41	



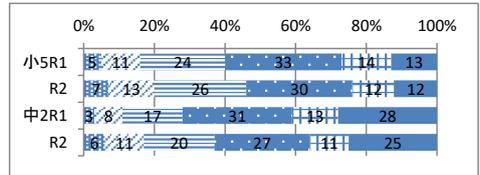
11 学校で行う鑑賞教室などを通じて、様々な芸術文化に触れ、興味がわきましたか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	34	38	17	10
	R2	33	39	18	10
中学2年	R1	30	41	21	8
	R2	24	44	21	11
		68		32	



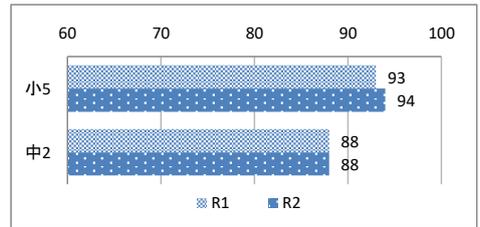
12 学校の授業以外で1日にどれくらいの時間、読書を読みますか。

学年	年	2時間以上	1時間以上 2時間より 少ない	30分以上 1時間より 少ない	10分以上 30分より 少ない	10分より 少ない	全くしない
小学5年	R1	5	11	24	33	14	13
	R2	7	13	26	30	12	12
中学2年	R1	3	8	17	31	13	28
	R2	6	11	20	27	11	25



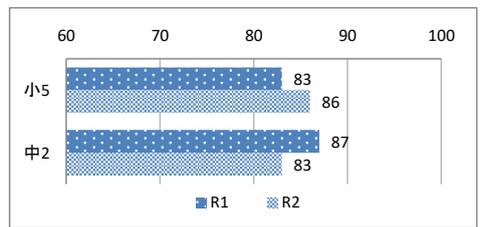
13 自分の住む地域には、良いところがあると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	69	24	5	3
	R2	71	23	4	2
中学2年	R1	59	29	8	4
	R2	52	36	8	4
		88		12	



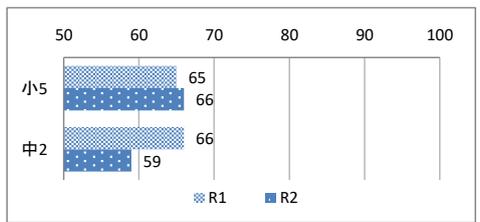
14 学校や地域で行う体験活動に、今後も継続して参加したいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	47	36	12	5
	R2	49	37	10	4
中学2年	R1	48	39	9	4
	R2	40	43	12	5
		83		17	



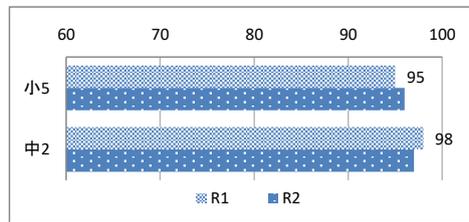
15 自分の住む地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがありますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	24	41	25	10
	R2	24	42	24	10
中学2年	R1	22	44	23	10
	R2	19	40	29	13
		59		42	



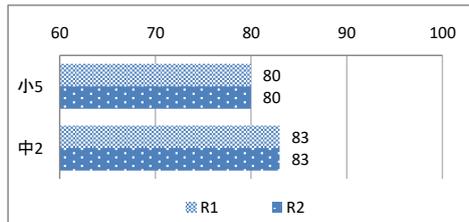
16 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	76	19	3	2
	R2	76	20	3	1
中学2年	R1	80	18	2	0
	R2	83	14	2	1



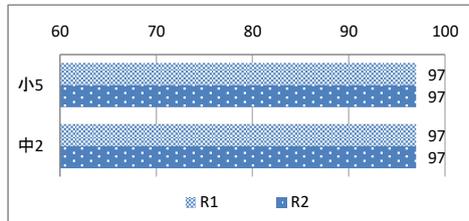
17 先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	36	43	14	7
	R2	36	44	14	6
中学2年	R1	28	51	14	7
	R2	35	48	12	5



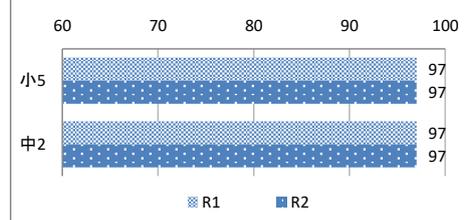
18 人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	69	28	3	1
	R2	69	28	3	1
中学2年	R1	65	31	3	1
	R2	68	29	2	1



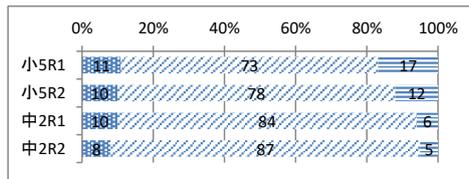
19 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	85	12	2	1
	R2	83	14	2	1
中学2年	R1	79	18	2	1
	R2	83	14	2	1



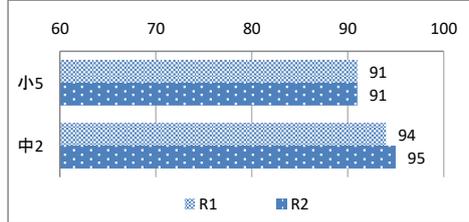
20 悩みなど困ったときに相談する、学校以外の相談窓口があることを知っていますか。

学年	年	連絡先まで 知っている	あることは 知っている	知らない
小学5年	R1	11	73	17
	R2	10	78	12
中学2年	R1	10	84	6
	R2	8	87	5



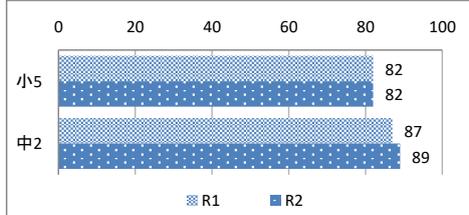
21 道徳の授業の中で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする学習活動に取り組んでいますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	54	37	7	2
	R2	54	37	7	2
中学2年	R1	63	31	5	1
	R2	64	31	4	1



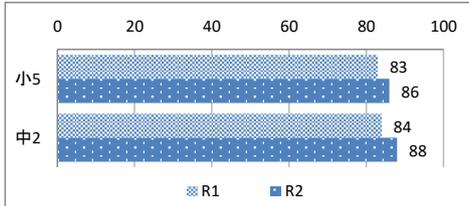
22 友だちと話し合うとき、自分の考えを相手にきちんと伝えながら、少数の意見にも耳を傾け、意見をまとめていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	31	51	14	3
	R2	32	50	14	4
中学2年	R1	38	49	11	2
	R2	41	48	9	2



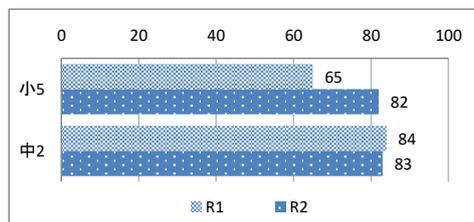
23 学級は、お互いに助け合ったり、お互いのよさを認め合ったりできている学級だと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	45	38	12	4
	R2	49	37	11	3
中学2年	R1	46	38	12	4
	R2	48	40	9	3



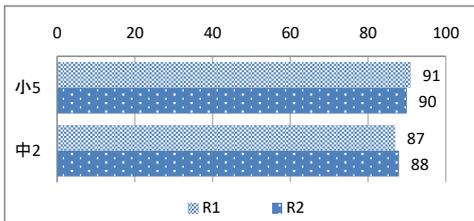
24 授業中、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	24	41	25	10
	R2	34	48	15	3
中学2年	R1	25	59	13	3
	R2	34	49	14	3



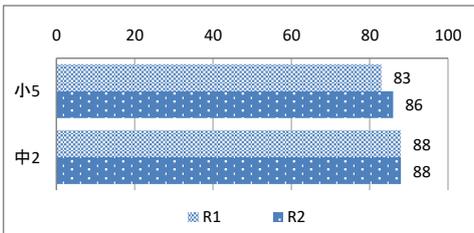
25 あなたは授業中の振り返る活動で、その時間の学習内容で何が大切だったかが、わかったと感じていますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	R1	47	44	7	2
	R2	46	44	8	2
中学2年	R1	35	52	11	2
	R2	38	50	10	2



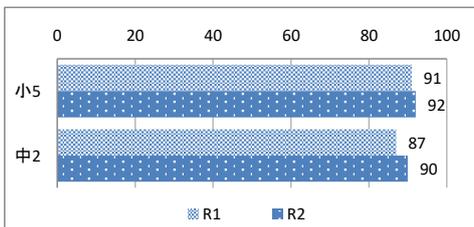
26 学級には、授業中の先生からの質問や、教科書の問題の答えなどについて、間違っても認め合える雰囲気がありますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	R1	43	40	12	4
	R2	46	40	11	3
中学2年	R1	44	44	9	3
	R2	46	42	9	3



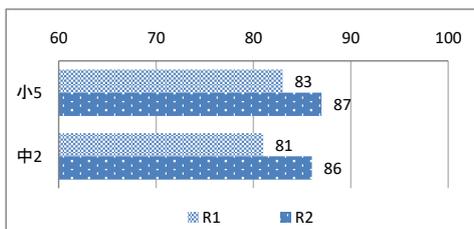
27 先生は、授業で分からなかったところや、理解していないところについて分かるまで教えてくださいか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	R1	64	27	6	3
	R2	66	26	6	2
中学2年	R1	47	40	9	3
	R2	51	39	7	3



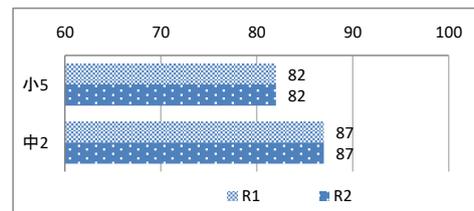
28 あなたは、授業で分からなかったところなどや理解していないところについて、自分で調べたり、先生や友だちに聞いたりして、解決していますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	R1	41	42	12	5
	R2	51	36	9	4
中学2年	R1	37	44	14	5
	R2	49	37	10	4



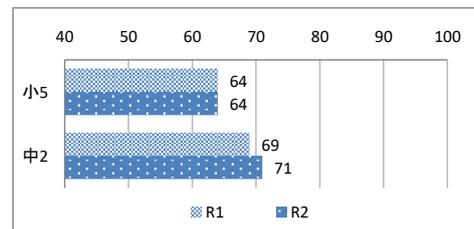
29 授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	R1	40	44	12	4
	R2	37	45	14	4
中学2年	R1	44	43	11	2
	R2	45	42	11	2



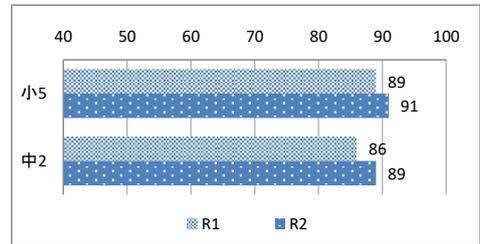
30 国語の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	R1	25	39	23	13
	R2	25	39	24	12
中学2年	R1	27	42	24	8
	R2	28	43	21	8



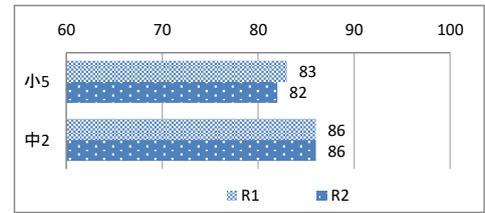
31 国語の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	R1	41	48	8	3
	R2	43	48	7	2
中学2年	R1	31	55	13	1
	R2	37	52	9	2



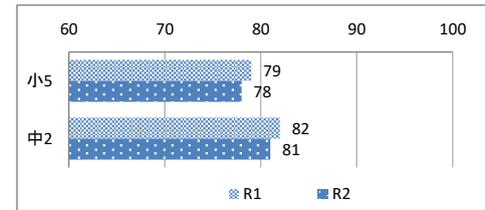
32 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、考えの理由が分かるように気を付けていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	37	46	14	4
	R2	37	45	15	3
中学2年	R1	35	51	13	2
	R2	38	48	12	2



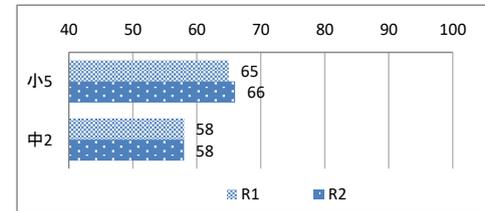
33 国語の授業で文章を読むとき、目的を意識して、必要な情報を見つけながら読んでいますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	34	45	16	5
	R2	34	44	17	5
中学2年	R1	35	47	15	2
	R2	36	45	16	3



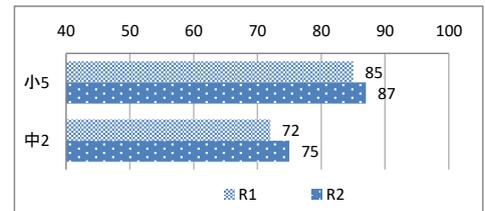
34 算数・数学の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	R1	38	27	20	15
	R2	38	28	19	15
中学2年	R1	30	28	25	17
	R2	29	29	25	17



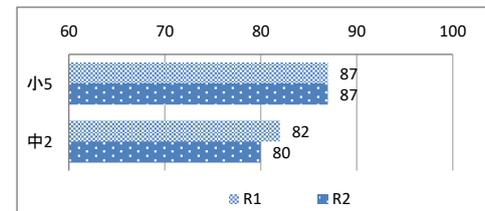
35 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	R1	46	39	11	4
	R2	48	39	10	3
中学2年	R1	35	37	21	8
	R2	36	39	18	7



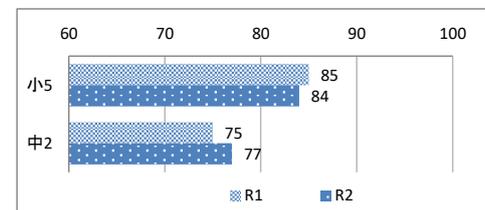
36 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	49	38	11	3
	R2	49	38	10	3
中学2年	R1	37	45	14	4
	R2	41	39	16	4



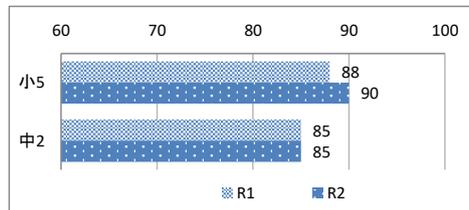
37 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずに別の方法を考えますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	50	35	11	3
	R2	47	37	12	4
中学2年	R1	36	39	20	5
	R2	38	39	17	6



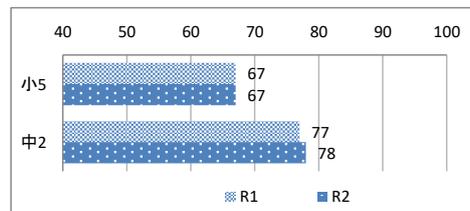
38 算数・数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	58	30	9	3
		88		12	
小学5年	R2	59	31	8	2
		90		10	
中学2年	R1	48	37	9	6
		85		15	
中学2年	R2	55	30	10	5
		85		15	



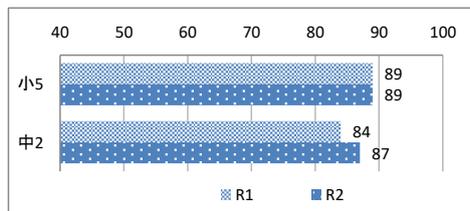
39 社会の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	R1	35	32	20	13
		67		33	
小学5年	R2	34	33	21	12
		67		33	
中学2年	R1	42	35	16	8
		77		24	
中学2年	R2	43	35	16	7
		78		23	



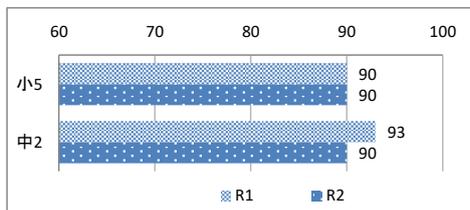
40 社会の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	R1	49	40	8	3
		89		11	
小学5年	R2	50	39	9	2
		89		11	
中学2年	R1	44	40	12	4
		84		16	
中学2年	R2	46	41	10	3
		87		13	



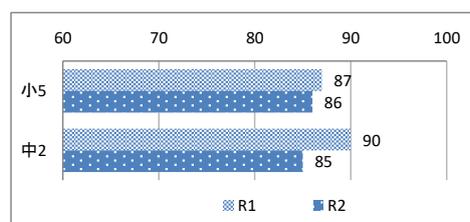
41 社会の授業で学習問題(学習課題)を解決するとき、資料から関係のあることを読み取る活動を行っていますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	R1	55	35	8	2
		90		10	
小学5年	R2	55	35	8	2
		90		10	
中学2年	R1	59	34	6	1
		93		7	
中学2年	R2	55	35	8	2
		90		10	



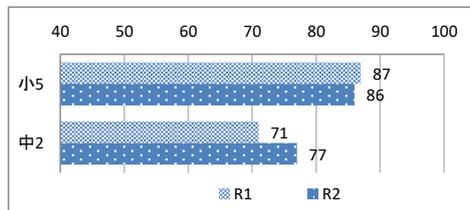
42 社会の授業で、資料から読み取ったことなどをもとに、学習問題(学習課題)について考える活動を行っていますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	R1	45	42	10	3
		87		13	
小学5年	R2	43	43	12	2
		86		14	
中学2年	R1	54	36	8	1
		90		9	
中学2年	R2	45	40	12	3
		85		15	



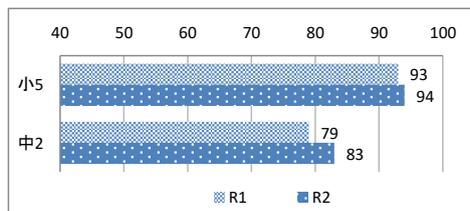
43 理科の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	R1	60	27	8	4
		87		12	
小学5年	R2	58	28	9	5
		86		14	
中学2年	R1	34	37	21	9
		71		30	
中学2年	R2	40	37	16	7
		77		23	



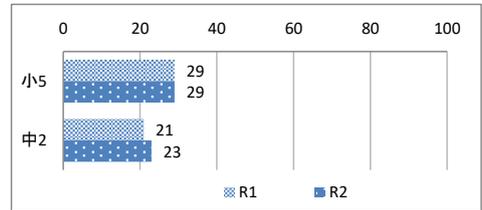
44 理科の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	R1	63	30	4	2
		93		6	
小学5年	R2	63	31	5	1
		94		6	
中学2年	R1	33	46	15	6
		79		21	
中学2年	R2	39	44	13	4
		83		17	



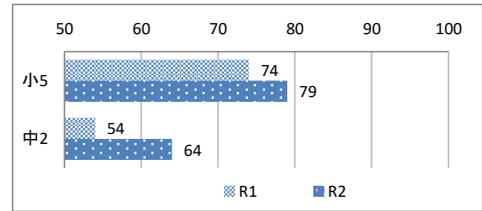
45 将来、理科や科学技術に関係する職業に就(つ)きたいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	14	15	29	42
	R2	12	17	29	42
中学2年	R1	8	13	32	46
	R2	9	14	30	47
			23		77



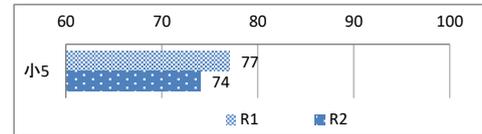
46 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	37	37	17	9
	R2	41	38	15	6
中学2年	R1	19	35	31	14
	R2	25	39	25	11
		64		36	



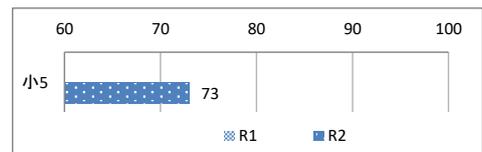
47 外国語活動の授業は好きですか。【小学校】

学年	年	好き	どちらかといえば 好き	どちらかといえば 好きではない	好きではない
小学5年	R1	48	29	14	9
	R2	42	32	16	10
		74		26	



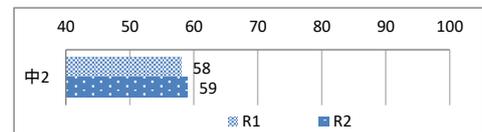
48 外国語を使って、外国の人と話をしたり、仲良くなったりしてみたいと思いますか。【小学校】

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1				
	R2	45	28	16	11
		73		27	



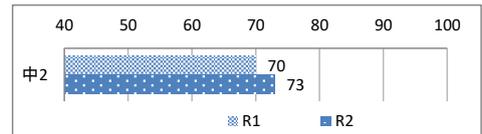
④⑦ 英語の勉強は好きですか。【中学校】

学年	年	好き	どちらかといえば 好き	どちらかといえば 好きではない	好きではない
中学2年	R1	25	33	26	16
	R2	27	32	25	16
		59		41	



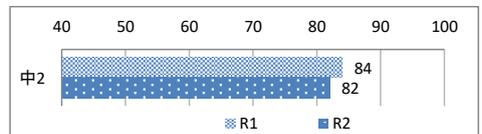
④⑧ 英語の授業の内容はよく分かりますか。【中学校】

学年	年	よく分かる	どちらかといえば 分かる	どちらかといえば 分からない	分からない
中学2年	R1	25	45	20	10
	R2	31	42	19	8
		73		27	



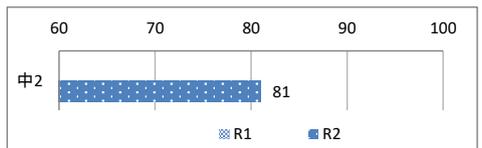
④⑨ 英語の授業で、まとまりのある英文を聞いたり読んだりして、文章全体の概要や要点をとらえる活動をしていますか。【中学校】

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中学2年	R1	42	42	12	4
	R2	43	39	13	5
		82		18	



⑤⑩ 英語の授業で、聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えや気持ちを英語で話したり、書いたりする活動をしていますか。【中学校】

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中学2年	R1				
	R2	44	37	13	6
		81		19	



令和3年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜に係る出願状況について

1 入学願書受付期間

令和2年11月27日（金）から令和2年12月3日（木）正午まで

2 入学志願者数

	定員	入学志願者数	志願倍率	備考
計	70	113	1.61	・男女枠なし ・35人学級、2クラス編成の定員

（参考）過去の志願者数

令和2年度				平成31年度				平成30年度			
区分	定員	入学志願者数	志願倍率	区分	定員	入学志願者数	志願倍率	区分	定員	入学志願者数	志願倍率
なし	70	119	1.70	男子	40	76	1.90	男子	40	77	1.93
				女子	40	84	2.10	女子	40	89	2.23
計	70	119	1.70	計	80	160	2.00	計	80	166	2.08

議案第 27 号

岩手県立博物館協議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて
次のとおり岩手県立博物館協議会委員の任命及び解任をすることについて、議決を求める。

1 任命（令和3年1月1日付）

職 名 等	氏 名
盛岡市立緑が丘小学校校長	阿 部 真 一
盛岡市立下橋中学校校長	松 葉 覚

2 解任（令和2年12月31日付）

氏 名	任 命 年 月 日	解 任 理 由
本 田 岳 雄	令和元年12月23日	辞任の申し出があったため
菊 池 正 樹	令和元年6月23日	辞任の申し出があったため

令和2年12月21日提出

岩手県教育委員会教育長 佐 藤 博

理由

岩手県立博物館協議会委員の任命及び解任をしようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

岩手県立博物館協議会委員構成

	現委員				新委員(案)の構成				備考			
	推薦団体	職名	氏名	性別	年齢	初任命	任期	職名		氏名	性別	年齢
学校教育関係者	岩手県小学校長会	盛岡市立東松園小学校長	本田 岳雄	男	56	R1.12.23 (1期)	R3.6.22	盛岡市立緑が丘小学校長	高部 真一	男	58	推薦依頼
	岩手県中学校長会	盛岡市立厨川中学校長	菊池 正樹	男	60	R1.6.23 (1期)	R3.6.22	盛岡市立下橋中学校長	松葉 寛	男	59	推薦依頼
	岩手県高等学校長協会	県立盛岡第四高等学校長	五井 健	男	60	R1.6.23 (1期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
社会教育・家庭教育関係者	岩手県青年団体協議会	会長	松田 恵美子	女	34	H27.6.23 (3期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
	特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会	理事(前副会長)	大野 邦子	女	78	R1.6.23 (1期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
	一般社団法人岩手県PTA連合会	副会長	壽松木 享	男	54	H2.8.1 (1期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
	岩手県博物館等連絡協議会	石神の丘美術館主任学芸員	齋藤 桃子	女	42	H25.6.23 (4期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
学識経験者	岩手県市町村教育委員会協議会	八幡平市教育委員会教育長	星 俊也	男	65	H30.9.1 (2期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
	岩手県立博物館女の会	会員	細越 千絵子	女	51	H29.6.23 (2期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
個人	株式会社岩手日報社	学芸部次長	及川 亜希子	女	46	R1.6.23 (1期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
		岩手医科大学教養教育センター ター教授	松野 俊	男	60	H29.6.23 (2期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
		岩手大学教育学部教授	菅野 文夫	男	65	H27.6.23 (3期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
		啄木研究家(元石川啄木記念館学芸員)	山本 玲子	女	63	R1.6.23 (1期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
		盛岡ふるさとガイドの会 員	沼重 由紀子	女	78	H26.7.1 (4期)	R3.6.22		変更なし			今回改選なし
	公募		小山 信一					R2.5.17逝去				今回改選なし (任期R1.12.23~ R3.12.22)

※ 年齢は、令和3年1月1日現在であること。

【審議会等の設置・運営に関する指針】	(旧)	(新)
在任期間が8年を超える委員	0名	0名
委員の男女比率(男性:女性)	50.0%:50.0%	50.0%:50.0%
若手委員(50歳未満)の登用率	21.4%	21.4%

